

カナダ・カルガリー 研修報告書

令和元年度四万十町

高校生海外研修事業

2019年8月5日～19日



目次



1

主催者挨拶

1

2

研修目的・概要

2

3

研修生紹介

6

4

研修旅行記

9

5

研修生作文

26

6

研修生・保護者アンケート

40

7

現地・引率スタッフより

46



主催者挨拶



四万十町では、持続可能な魅力ある高校づくりを目指した「四万十町高校応援大作戦」として、地元高校に通う皆さんを応援しています。

この取り組みの一環で、昨年度に続き2回目となる本年度の海外研修を実施しました。その目的は、高校生という多感で将来を考える大事な時期に、広い視野と判断力、行動力をはぐくみ、ふるさとに誇りと愛着を持ち、社会で活躍することができる人材を育成することです。

本事業に参加された13名の生徒の皆さんは、町営塾「じゅうく。」での事前学習を経て、不安と期待を胸に8月5日に出発し、8月19日までの15日間、カナダ・カルガリーにて研修プログラムを体験しました。

英会話の難しさや文化の違いに緊張とフラストレーションも抱きつつも、小さなチャレンジを繰り返し積極的なコミュニケーションを深めたことは、生徒の皆さんにとって大きな一歩であったと思います。

現地での異なる文化や生活をホームステイプログラムで体験し、日本やふるさとをあらためて見つめ直すきっかけになったことでしょう。また、ホストファミリーの温かさにも触れ、自分の家族の温かさを再確認し、支えていただいた方々への感謝の意も芽生えたことと思います。

それぞれの学んだことや感じたことは様々でしょうが、今回の経験は、英語学習はもちろんのこと、何事にも主体的に取り組もうとする挑戦意欲にもつながったことと思います。

この貴重な体験を通して培った友情と交流が、今後の高校生活にも大いに活かされること、そして将来それぞれが地域で活躍できることを期待しています。

本事業実施にあたり、企画運営に携わっていただいた関係者の皆さま、温かく迎えていただいたカルガリーのホストファミリーや市民の方々に感謝を申し上げご挨拶いたします。

四万十町長 中尾 博憲

研修目的・概要

研修の目的・意義

Be a change maker

カナダ研修の中で、新しいこと・少し難しいと感じることにチャレンジし、自分自身に変化を起こす。「自分にもできた」という経験を通して、自分の可能性に気づき、他者や社会に対して変化を起こす「変化の創り手」になること。

研修体制

■旅行企画・実施

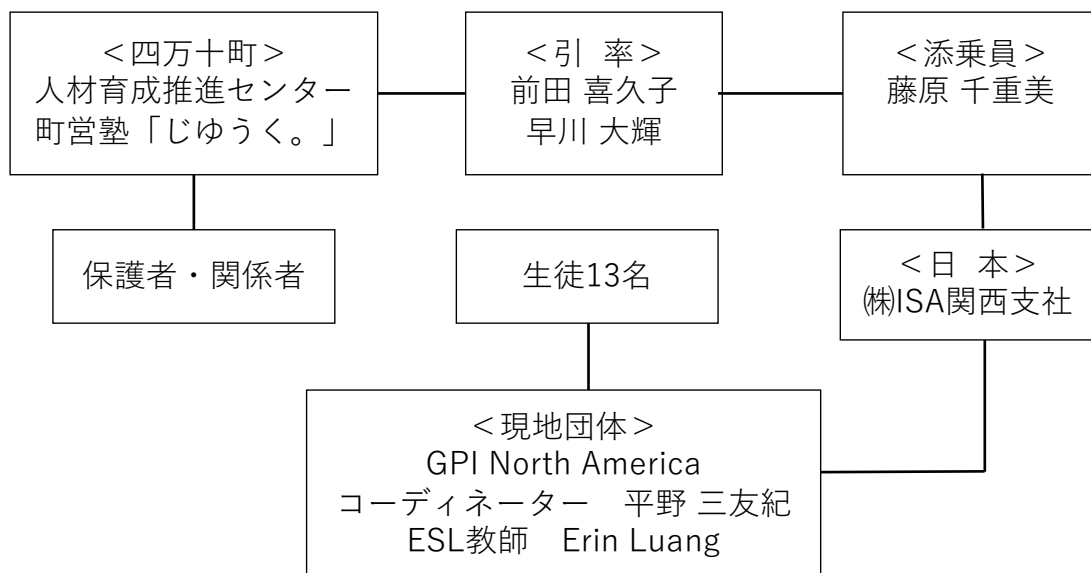
株式会社アイエスエイ（ISA）関西支社

〒531-0072 大阪市北区豊崎3-20-12 パールグレイビル 2F

■現地受入団体

GPI North America

205_2526 Yale Court Abbotsford, BC V2S 8G9



事前・事後研修

■ISAによる事前研修

日時	内容	備考
5月15日（水） 18:30～20:00	渡航手続き説明会 プログラム説明、渡航前手続説明	保護者 同伴
6月26日（水） 18:30～20:00	ホームステイオリエンテーション ホームステイの基本知識と過ごし方等	
7月24日（水） 18:30～20:00	渡航前オリエンテーション 日程確認と注意事項、最終確認	保護者 同伴

■町営塾「じゅうく。」での事前研修



チームビルディング



オンライン英会話



新聞ばっく制作練習



Social Change

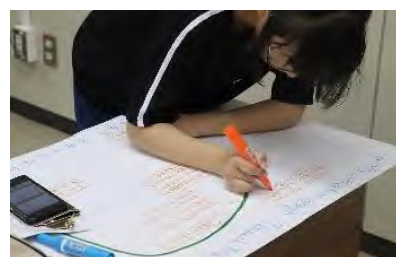


ICT機器の利活用



振り返りの習慣化

■町営塾「じゅうく。」での事後研修



学びの掘り起こし



学びの言語化



Social Change

※Social Change：（株）教育と探求社が提供するアクティブラーニング型の探究プログラム。生徒自ら社会課題を見つけて、企画を考えプレゼンします。この学習過程でアイデア出しや合意形成の方法などのグループワークを学びます。

研修地

■ Calgary, Alberta



カナダ・アルバータ州最大の都市であるカルガリーは、同国有数の世界都市である。人口約108万人。アルバータ州の南部、カナディアンロッキー山脈から東に約80kmの高原地帯に位置する。2013年には世界一クリーンな町に選出。石油産業で近年急速に発展している。アルバータ牛でも知られ、牛の街「カウタウン」(Cowtown)とも呼ばれている。

■ Banff National Park



バンフ国立公園は、カナダのアルバータ州に存在する、カナダで最初に設立された国立公園である。カルガリーから西へ約2時間ほどで国立公園の中心街であるバンフに到着する。近隣の国立公園と共に世界遺産に登録されている。

写真のMoraine Lakeは標高1800mに位置する氷河湖で、ターコイズブルーの湖面が有名である。

■ Japanese Festival “Omatsuri”



現地の日本人コミュニティが主催するJapanese Festival “Omatsuri”。現地に住む日系人だけでなく、地元のカナダ人もたくさん訪れる夏の一大イベント。

今年度も、会場内に四万十町ブースを設置させてもらい、四万十町の宣伝及び「しまんと新聞ばっぐ」の販売と体験コーナーを準備した。

研修日程

月日	時間	プログラム内容
8月5日(月)	NH564 @10:20 AC010 @11:05	農村環境改善センター⇒高知龍馬空港⇒羽田空港⇒ 成田空港⇒カルガリー空港
8月6日(火)	09:00-11:30 11:30-15:00 15:00-16:00	ESLクラス ピザづくり ESLクラス
8月7日(水)	09:00-10:00 10:00-16:00	ESLクラス Heritage Village観光
8月8日(木)	09:00-10:00 10:00-16:00	ESLクラス Chinook Mallにて5ピンボーリング
8月9日(金)	09:00-12:00 12:00-16:00	新聞ばっぐ制作練習 Omatsuri会場準備
8月10日(土)	終日	Calgary Japanese Festival “Omatsuri”参加
8月11日(日)	終日	ホストファミリーとの休日
8月12日(月)	終日	カルガリーダウンタウン散策
8月13日(火)	09:00-10:00 10:00-16:00	ESLクラス カルガリー大学訪問
8月14日(水)	終日	バンフ国立公園観光
8月15日(木)	09:00-10:30 10:30-12:00 13:00-16:00	SDGsについて学習&牧師さんの講話 動物シェルター訪問 Grow Calgary代表とのオンライン座談会
8月16日(金)	09:00-14:00 14:00-16:00	ESLクラス プレゼンテーション、お別れ会
8月17日(土)	終日	ホストファミリーとの休日
8月18日(日)	AC009 @12:45	スタディーセンター出発 ⇒カルガリー空港⇒成田空港
8月19日(月)	JL499 @19:05	成田空港⇒羽田空港⇒ 高知龍馬空港⇒農村環境改善センター

研修生紹介



研修生からの一言メモ

- ① 参加動機
- ② カナダのお気に入りポイント
- ③ カナダでの一番の挑戦



上野 仁裕
Ueno Mahiro

四万十高校 2年
十川中学校出身



- ① 進路のきっかけを掴むため
海外に興味があったから
多角的な視野がほしかったから
- ② 自然
- ③ 英語で買い物



大崎 百芽
Osaki Yume

窪川高校 2年
窪川中学校出身



- ① 自分の中にある壁を壊したい
と思ったから
- ② オシャレな街並み
- ③ 初日に行ったSUBWAY



尾崎 昌広
Ozaki Masahiro

四万十高校 1年
大正中学校出身



- ① 色々な文化に触れたかった
外国に行きたかった
- ② みんな話しやすく、話しかけても優しく対応してくれる
- ③ 現地の人とストリートバスケット



國見 海斗
Kunimi Kaito

窪川高校 1年
窪川中学校出身



- ① 人見知りを克服したかった
- ② みんながとても優しい
- ③ 英語での買い物



黒岩 小雪
Kuroiwa Koyuki

窪川高校 2年
窪川中学校出身



- ① 将来海外で働きたくて、
その第一歩にしたかった
- ② 街並みと人の優しさ
- ③ 出来ないを言わない
何でもチャレンジしてみる



谷口 茉優
Taniguchi Mayu

窪川高校 1年
窪川中学校出身



- ① カナダに行きたかった
自分の性格を変えるため
- ② メープルシロップのお菓子がたくさんある
- ③ バスの中でのインタビュー



近添 琴音
Chikazoe Kotone

窪川高校 1年
窪川中学校出身



- ① 海外に日本の文化を伝えたい
海外の文化を知りたい
- ② ヘリテージパーク。機関車に乗れるし色々なアトラクションがある
- ③ 自分の好きな事を改めて知る



中屋 輝子
Nakaya Kiko

四万十高校1年
大正中学校出身



- ① 苦手意識なく自分から進んで英語を使うようになりたいと思ったから
- ② 景色が良くて、人が優しい
- ③ 自分から話しかける



那須 詩音
Nasu Shion

四万十高校1年
大正中学校出身



- ① なんとなく行きたいと思った
- ② 人の良さ
- ③ 街で会った人に話を聞いた



仁井 菜貴
Nii Natsuki

窪川高校2年
窪川中学校出身



- ① 将来の視野を広げるため
- ② ホストファミリーが優しい
- ③ 知らない道を輝子ちゃんと散歩したこと



林 巧人
Hayashi Takuto

四万十高校1年
大正中学校出身



- ① 何か新しいことをしたくてちょうど安い価格で行けると知ったから
- ② 景色がきれいですべてが大きいところ
- ③ 自分からバディに話しかけた



間崎 花帆
Mazaki Kaho

窪川高校2年
窪川中学校出身



- ① 自分を変えたいと思ったから
- ② オシャレな街並みと自然
- ③ 一人でのホームステイ



横田 航希
Yokota Koki

窪川高校1年
興津中学校出身



- ① 昔のように積極性を出したい英語を話せるようになりたい
- ② 僕たちに優しく接してくれるカナダの人たち
- ③ 自分の思ったことを英文にして伝えたこと



研修旅行記

DAY1**AUGUST 5 MON****IN JAPAN**高知龍馬・羽田・成田を
經由してカルガリー空港へ

添乗員のちえママと対面



7:00に農村環境改善センターに集合し、出発式が行なわれる。教育長や校長先生から激励の言葉をいただき、「ただ旅行に行くわけじゃない」と身が引き締まる。塾長によるパスポートチェックは無事全員クリア。生徒もスタッフもまずは一安心。町職員、学校の先生、ご家族、「じゅうく。」スタッフに見送られ、高知龍馬空港へ出発。



空港では、昨年度もお世話になった添乗員の藤原千重美さんと対面。「2週間、ちえママって呼んでね!」との声かけに笑みがこぼれる。緊張がほぐれる。「Eチケット、なくさないでよ…」すぐにかばんにしまったことを厳重に確認する。荷物の重さ制限を気にする生徒もいたが、ここも無事全員クリア。空港には、しばしの別れを惜しんで多くのご家族が見送りに来てくださった。手荷物検査後のガラス越しに、たくさんの応援を受けての研修であることを改めて認識。



羽田空港へは約1時間。そこから貸切の連絡バスに乗り、成田空港へ。車窓からディズニーランドが見えるも、早起きで眠いせいか、予想より薄めのリアクション。貸切の車内で椅子を広々使って眠りにつく生徒もちらほら。成田空港に着くといよいよ国際線のチェックイン。まだ日本なのでもちろんエアカナダの窓口も日本人だったが、新聞ばック作成用の道具が入っている大きな段ボールを預ける際に怪しまれ、どぎまぎする場面も。



16:25のエアカナダに乗り、いよいよ出国。ネックピローにアイマスク、本や動画のダウンロードなど、皆長時間フライトへの準備が良い。「さあ、英語を使う機会だ」とドキドキするも、聞こえたのは「beef or chicken」ではなく、「ビーフですか?チキンにしますか?」。CAさんは片言の日本語が話せる方だった。さすが、日本発のフライト。そんなこんなで特に緊張する場面もなく、カルガリーへ向かったのであった。



DAY1 AUGUST 5 MON

IN CANADA



コーディネーター
三友紀さんと対面



カルガリー最大のショッピング
モールにて初ランチ



ダウンタウンが一望
できる丘で記念撮影



バスドライバーの息子
Alexにびっくり



スタディーセンター到着
ホストファミリーと対面



約10時間のフライトを終えて、現地時間11:05にカルガリー空港 (YYC) に到着。パワフルコーディネーター平野三友紀さんに迎えられます。



北米お馴染みの黄色いスクールバスに揺られてまず着いたのは、カルガリー最大のショッピングモール。大自然を模したアウトドアのお店。店内には動物のはく製や自然の模型がひしめき、早速カナダを感じる。

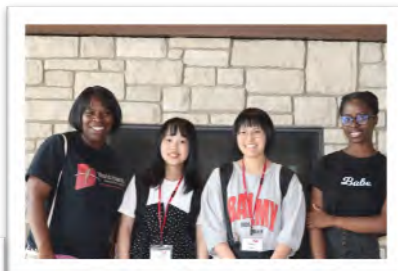
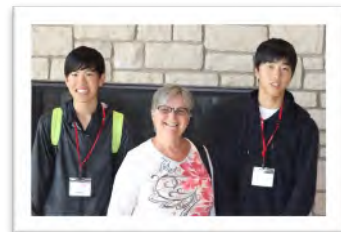


フードコートでのランチは、もちろん英語でオーダー。具材やパンを選び、オリジナルサンドを作るSUBWAYというお店に挑戦する生徒も。



ダウンタウンが一望できる丘で記念撮影。道中、同乗していたバスドライバーの息子さん、Alex (17歳) が車内で自己紹介をする流れに。無茶ぶりにもかかわらず、10~15分ほど自分やカナダの紹介を堂々とする姿に、

「日本で同じこと求められてもすぐにはできない」と尊敬の念。そうこうしているうちにバスはスタディーセンター (SC) へ。簡単な自己紹介の後、ホストファミリーと対面。「よく来たねー！」と握手やハグで温かく迎えられ、ほっと一息ついた一行であった (初日には表情が柔らかいかな?)。



DAY2 AUGUST 6 TUE



Erin先生・バディと対面



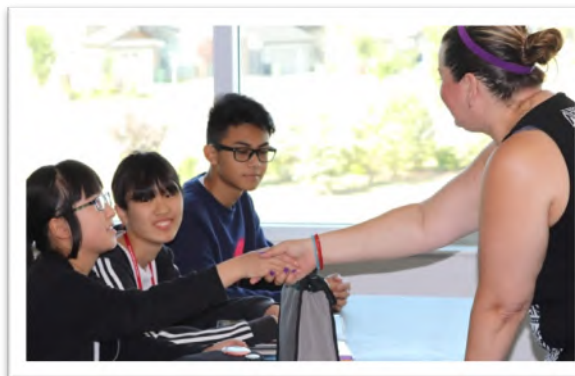
カナダのお金について勉強



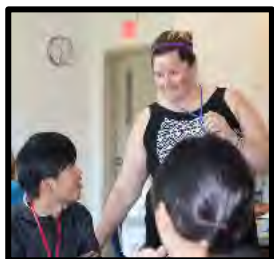
ピザづくり



自己紹介プレゼンテーション



Erin先生と3名のバディに対面し、英語クラスがスタート。優しさに安心するも、簡単な英語にフリーズ。「わからないことが怖い」という気持ち強い様子。



お互いの簡単な自己紹介とグループ分けの後、ピザのトッピングの買い出しに向け、カナダのお金について勉強。コインが紛らわしく、苦戦する。

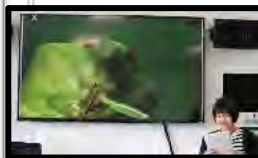


買い出しは歩いていける近くのスーパーへ。店員さんに売り場を訊くチャレンジをするも、慣れない単語が多く、一度ではうまく伝わらない。

ピザづくりはSCにて。家でお手伝いしていないことがバレバレな包丁さばきの生徒も(笑)材料こそ似ているものの、個性的なピザが3種類できあがる。その後、RootBeerの試飲会。昨年度の生徒が「まずい」と騒いでいたので、今年度は全員で乾杯。湿布の味に顔が渋くなる。各グループでピザを試食するも、お葬式感が半端ない。「英語で話しかけることは難しい、かといって日本語で話するのは失礼だよな」そんな戸惑いが伝わってくる空間だった。



試食後は、日本で用意してきた自己紹介タイム。家族写真や好きなもの・嫌いなものの写真を使ってプレゼン。傑作の「カメムシ嫌い」スピーチが誕生する。声量や目線をもう少し工夫できたかな?という生徒もいたが、「知らない言語で、知らない土地で、こんな風になれるなんて本当に素晴らしい!日本に行ったら日本語で同じことをどうぞって言われてもできないよ!」とErin先生。たくさん英語を使い、どっと汗をかいた1日であった。



DAY3

AUGUST 7 WED



国歌の勉強

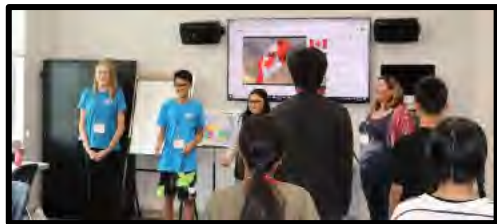


カナダ地図パズルに挑戦



Heritage Villageを訪問

この日のメインはカナダの歴史と文化を感じるHeritage Villageだったため、授業もカナダについて知るプラン。まずは多民族の共生と友愛を謳ったカナダ国歌。毎日学校で歌うのが普通らしく、日本よりずっと国歌が身近な様子。続いて「君が代」を歌うと、Erin先生は悠久の歴史を持つ日本に敬意を表してくれた。



その後、カナダ全土の地図パズルにとりかかる。一番早かったのはものづくり好きな男子ペア。ここでトラブル発生。あちこちでピースが合わない。「以前片付ける時、いろんなピースを混ぜてしまったかも(笑)」Erin先生の一言に生徒が驚愕する。そんなことある?!



スクールバスでHeritage Villageへ。隣に座り、車窓から見えるモノを英語で何と言うか訊くなど、自然とバディと話す姿も。慣れが早い。



日本語で各ホームステイ先の様子を共有していた生徒たちも。みんな会えて嬉しいようだ。カナダ到着後から、学校と学年の域を超えて急激に仲良くなっている感じ。



20世紀半ばのカナダの街並みを移転保存したHeritage Village。ここでは紙に描かれているものを探しに行くスカベンジャーハントに挑戦。パークの人に積極的に訊きに行き、最終的に3グループとも達成。映画のような綺麗な街並みに「こんなところに住みたい」と胸を躍らせる生徒もいた。ランチ後の自由時間はパーク内のB級アトラクションへ。チープだけれどなかなか面白い。ストラックアウトに挑戦し、計10回20ドルも投資してバッファローのぬいぐるみをゲットした男子陣も(3歳くらいの子は一発で取っていた)。高価なぬいぐるみになったので、価値ある「かっちゃん」と命名。その過程でValuableという単語も覚えたのであった。



DAY4 AUGUST 8 THU

- ✓ バディ自己紹介
- ✓ 5ピンボウリング&ショッピング
- ✓ スタバチャレンジ
- ✓ 突然のファーマーズマーケット



朝は急遽バディの自己紹介タイムに。基本的な情報に加え、ボランティア経験について話してもらう。カナダでは当たり前らしく、小さい子のキャンプの付き添いをするなど、3人ともボランティアを経験していた。

Chinook Centreへは公共交通機関で移動。カルガリーの公共交通は、バスも電車も含めて1つの組織によって管理されているため、チケットは初乗りから90分間有効という時間制。そのため、初めてバスに乗る時はTransfer pleaseと伝える必要がある。距離に応じて値段が変わり、バスと電車で同じ切符を使えることのない日本人にとっては新鮮。



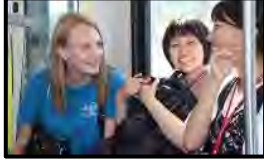
Chinook Centreに到着して5ピンボウリング。cm表記の靴のサイズ表があり、皆安心してサイズを伝えるも、「でか!」という声が続出。どうやら0.5~1cmほど小さめのものがちょうどいい感じ。cmは世界共通じゃないのか(笑) 図らずも、トラブルに英語で対処する良い経験になった。



やはりスポーツは万国共通。あちこちで喜びの声やハイタッチ。「惜しい!」の英語"Close!"を知って連発する生徒や、闘争心むき出して勝負する生徒も。



自由時間の後、スタバチャレンジ。順番に並び、ひとりずつ注文。ただメニューから頼むのではなく、カスタマイズするのがカナダ流。メニュー表を指さしながらサイズを伝える生徒もいれば、カスタマイズに挑戦する生徒も。「一人」という状況になると、必死になる。まだコーヒーの年頃ではないのか、圧倒的なフラベチーノ率(想像以上の量のホイップに苦しめられていた)。



あつという間に帰宅時間。道中、警察官(本物)に声をかけると、集合写真に応じてくれる。「気さくすぎる」と驚きを隠せない。SCの最寄りのバス停に着くと、予期せぬイベント発生。木曜限定開催の移動式ファーマーズマーケットに出くわす。様々な味のはちみつや手作りアクセサリーなどが売られていた。25セント玉4枚で1ドルを作り、10ドル紙幣と合わせて11ドルのはちみつを買っていた生徒も。数日前にやったお金の勉強が活きている。

解散後、男子数名がSC隣接のバスケットコートで汗を流す。「友達とバスケしたいから迎えを1時間遅らせてくれないか」という申し出をファミリーが快諾してくれて実現。いつの間にか英語で交渉するようになっていたことが驚きだった。



DAY5 AUGUST 9 FRI

- ✓ しまんと新聞ばっぐの作り方を教える練習
- ✓ スタッフと1対1の面談
- ✓ Omatsuriの会場準備ボランティア



午前中は新聞ばっぐの作り方を教える練習と取っ手作りをせっせと行なう時間。バディを前に「作り方忘れた」とたじろいで2〜3回繰り返す生徒が続出。バディ自身が教えられるのでは？というレベルで繰り返しお客さん役になってもらう。



三友紀さんの計らいで、面識のないSCの職員さんに教えることになった生徒も。このチャレンジには2名の女子生徒が挑戦。三友紀さんから新聞ばっぐを手渡す際に伝えたら良い英語を教えてもらい、それを必死に暗記してプレゼント。一足先に達成感を抱く。取っ手作りの方では、職人のごとく黙々と作り続け、質の高さを見せる生徒もいれば、バディを積極的に巻き込んで作る生徒も。こういう作業は性格が出て面白い。スタッフとの1対1の振り返り面談も順番に行ない、フル回転の午前中だった。



お昼を食べて、スクールバスでOmatsuri会場のMax Bell Centreへ。アイススケート場であるため、中はひんやり。気温が低いこともあって、上着のない生徒は「寒い寒い」と震える。前日はあんなに暑かったのに……本当に気温差が激しい町。イベントを主催する日系コミュニティの方の指示を仰ぎながら屋外会場の設営と、暖簾や提灯などの会場装飾の手伝い。皆、さすがの働きっぷりで頼もしい。Omatsuri本番への期待と不安を膨らませた1日であった。



DAY6**AUGUST 10 SAT**

Calgary Japanese Festival "Omatsuri"

8:30から準備を始め、17:30に終わるといいう長い1日。10:00の開場まで余裕のない中、販売表が見えやすくなるような支えを段ボールで作ったり、折り紙で飾りを作ったり、英語で売り文句を覚えたり。それぞれの得意を活かして準備を進める。開場後は、シフト制で新聞ばっぐブース、縁日ブースのお手伝い、セキュリティの3か所へ。



新聞ばっぐワークショップは、開始直後から来場者があり、最後までブースが0人になることはなかった。最初こそ「来たらどうしよう」と不安に思っていた生徒だったが、時間が経つにつれ、自分で呼び込みをかける光景も見られ、イベントが終わる30分ほど前に、用意した150個分をすべて終えた。「やるしかない」と追い込まれると人は力を発揮するんだなあ。販売の方はあまり伸びなかったため、売り子としてブース外に移動販売をしに行く生徒も。会場のほぼ全員に声をかけ、移動販売だけで16個も売ったスーパー営業マンも現れた。



その他、神輿担ぎを手伝ったり、縁日ブースで子どもの相手をしたり、歩きながらヨーヨーを配ったりと多方面で大活躍。最後は会場全体の片付けに勤しんだ。「喜んでもらう」経験をたくさん積んだ1日であった（全体の片付けに邁進し、自分たちのブースで集合写真を撮るのを忘れた。任天堂さんありがとう）。

DAY7

AUGUST 11 SUN



ホストファミリーとの休日

教会に行ったり、キャンプファイヤーをしたり、散歩に行ったり、恐竜博物館へ遠出したり、ダウンタウンに赴いたり、スポーツに興じたり。ホストファミリーの計らいで、思い思いの休日をお過ごした。ゆったりした時間を過ごして、1週間の疲れも少しは取れたかな？



#3回もジム行った



#後ろ姿選手権



#化石アツイ



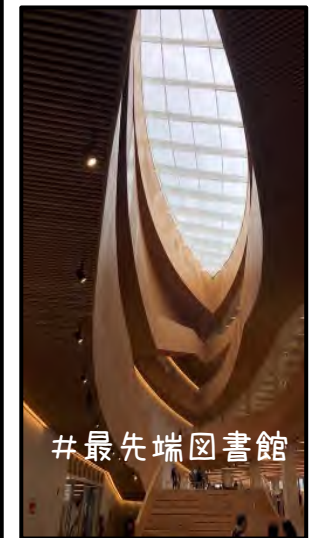
#一足先に
ダウンタウン



#総出で犬の散歩



#ご近所散歩中



#最先端図書館



#歌って踊る教会



#セルフイ—大好きマザー



#マシュマロでかすぎ

DAY8**AUGUST 12 MON**

ダウンタウンでAmazing Race

三友紀さんが周到に準備してくれた”The Amazing Race”（アメリカのTV番組）風、ダウンタウン散策。グループごとに紙に書かれたお題をクリアしていき、その速さを競うというもの。バスに乗るや否や最初のミッション。見知らぬ人へのインタビュー。もう突撃感にも慣れたのか、臆することなく訊きに行く生徒も。軽くあしらわれることもあったが、それも学び。



ダウンタウン到着後、2つ目のミッション、「市立図書館に辿り着け！」。ダッシュグループ、のんびりグループと性格が出る。昨年11月にできたばかりで、NewYorkTimesの「2019年に訪れるべき世界の52ヶ所」に選ばれた場所の1つでもある市立図書館。見た目の素敵さはもちろんのこと、ソファやテーブル、ミーティングルーム、パソコンブース、プレイエリア、カフェとなんでも揃っている（リビングさながらのビデオゲームコーナーまで……）。図書館という概念を覆された。



その後も「チャイナタウンで珍味を食べよ！」「一番売れているピンバッジを探せ！」など計10個のおもしろミッションをクリアし、ゴール。Erin先生の万歩計は、1万歩近くを指していた。帰りはぐったり。ちょっと肌寒いくらいがちょうどいい活動的な1日であった。



DAY9

AUGUST 13 TUE



カルガリー大学訪問



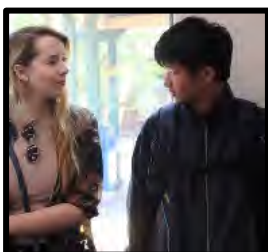
在カナダの日本人留学生と座談会

公共交通機関を使ってカルガリー大学へ。まずはキャンパスツアー。ツアーガイドのエンジニアリング専攻の学生に主要施設や学生寮を案内してもらう。規模はもちろんのこと、施設の充実さ（特にジムなどのスポーツ施設）に圧倒されっぱなし。大学への憧れを抱く。ツアーは三友紀さんの通訳を聞くスタイルで進んでいったが、途中、スタッフから通訳チャレンジを課せられ、何人かが行なうことに。通訳せねばという緊張感に包まれる。



午後からは座談会。カナダの学生のちゃんと勉強している雰囲気が好きで、日本の大学を辞めて来ている学生や、ホッケーと勉強を両立したくて来ている学生などとお話をする。「1年前は、地図を持ってwhereと言うのが精一杯だったけど、語学学校入って、5時間費やしてやっと終わるような宿題をやり続けていたら、気づかぬうちに話せるように」「とにかく恥ずかしさを捨てて喋る」「苦しいと思ってやるのは大変だから、せっかくなら、楽しくなる方法を考えてやったらいい」などの話に、一歩踏み出して行動することの大切さや、勉強するってこういうことなのか（時間も質も）という気づきがあった様子。

電車では、バディに指スマやアルプス一万尺を教えて一緒に楽しんだり、談笑したり。すっかり公共交通機関にも慣れた様子であった。



DAY10**AUGUST 14 WED**

Banff National Park観光



「カントリーロード」の練習



眠気まなこをこすりながらいつもより早い7:30集合。最終日のお別れ会で歌う「カントリーロード」を練習しながら2時間ほどかけてロッキー山脈のふもとへ。日本ではなかなか見ることのできない風景に圧倒。初めはLake Louiseへ。エメラルドグリーンの湖に感動。水を触って「ひやっ!」と声がる。そう、氷河湖は冷たい。絶景をバックに自撮り合戦が始まる。水中からの一風変わった写真が撮りたいのか、iphoneの性能を信じ、水に入れ出す生徒も。バディに怪訝な顔をされる。



その後、観光の中心地、Banffへ。2時間ほどの自由時間。所狭しと並ぶお土産屋さんの中には、日本語表記のお店がちらほら。日本人スタッフや、日本語が話せるスタッフもいた。1年生女子グループはナチュラルソープのお店で、高校生の時に日本に留学していたというニュージーランド出身の方と仲良くなる。外国でも日本を感じられるのは嬉しい。



ショッピングのあとは3カ所の絶景ポイントに寄って帰路へ。帰りはほとんどの生徒がタオルを被り、イヤホンをつけて爆睡。道中、富豪が両親のために建てたという信じられない大きさの家(どうみても立派なホテル)を、三友紀さんに教えてもらう。「将来、あそこを買い取るぐらい金持ちになる」と宣言する生徒。明確(?)な目標ができた。18:00ごろSCに到着。ホストに「バンフはどうだった?」と訊かれながら帰宅した。疲れてはいるが、もうそろそろ2週間が終わってしまうため、メッセージカード、振り返り、プレゼン作成などなど、帰ってもやることは盛りだくさん。

DAY11

AUGUST 15 THU



SDGsについて学習



牧師さんの話を聞く



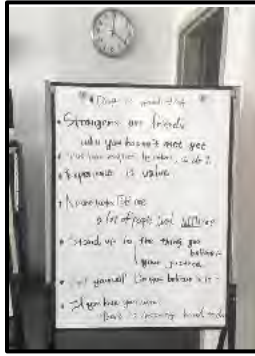
動物保護施設へ行く



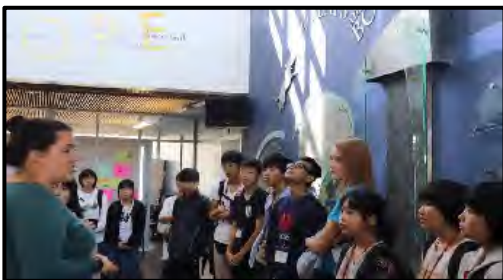
Grow Calgaryの方に
ビデオチャットで質問



まずは、SCのある教会で働く牧師さんのお話。「人は皆それぞれに素敵なスペシャリティがある。自分では気づかないかもしれないけど、そのスペシャリティは必ず誰かを助ける。皆がそれを最大限活かして協力することで社会は作られる。」メモを取りなと言わずとも、牧師さんらしい穏やかな口調で話される言葉の数々に筆を走らせる。後々、個別で質問をしに行く生徒も。



その後、NPO団体が運営する動物保護施設へ。130名のスタッフと640名のボランティアが関わり、年間5000匹もの動物を保護している。イメージと違って、明るく楽しい感じがした。「動物が好きだから」と働くボランティアの方の意見が、午前中に聞いた牧師さんの話と重なる。



SCに戻り、GrowCalgaryという団体を作った方とビデオチャット。「人を助けるのが人の使命」という信条から、耕作放棄地を農地に改良して経済的に恵まれない方々に食物を無償提供するという活動を行っているおもしろいおじさん。生徒は事前に質問を考え、パディに英語を確認し、一人一人ビデオ越しに話をする。情熱的自分の取組みを語る姿がかっこよかった。



ここ数日間と比べ、移動距離こそ少なかったものの、心と頭はフル回転。様々な方のお話を通して、自分の役割とは何か？人を助けるとはどういうことか？仕事とは何か？についてたくさん考えた1日だった。

DAY12 AUGUST 16 FRI

- ✓ 8月誕生日パーティ
- ✓ Erin先生・バディとお楽しみ会
- ✓ ホストファミリーに感謝を伝える会



ESLクラス最終日。バディのLilyとErin先生が早く帰らなければということもあり、準備とパーティを3度繰り返すパーティ三昧な1日。



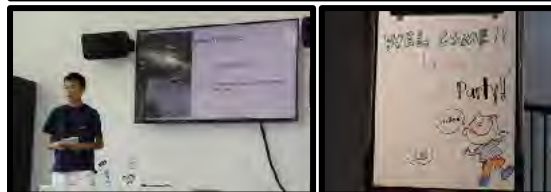
1回目は誕生日パーティ。大人含めて6人の8月生まれを祝い、ケーキをつつく。楽しい時は束の間、Lilyとお別れが迫る。仲良くなった女子たちは朝から大号泣。寂しさを急に実感した様子。ちえママがくれたグループごとのキーホルダーと一緒にパシャリ。初期と見違える良い表情！



2回目は日本のゲームをベースにした生徒企画のお楽しみ会。「豆掴み」「叩いてかぶって」「福笑い」など、数日前からそれぞれが考えていたゲームを行なう。ルール説明に難儀するも、バディや先生の優しさに支えられ、楽しんでもらった。「もっとこうしたらよかった」という感想は是非後日に活かそう。



3回目は、ホストファミリーを呼んでの発表会。2年生女子がよさこいを披露した後、カナダでの一番の思い出と、カナダで学んだことについて英語でプレゼン。初日の自己紹介プレゼンとは打って変わり、前を向いて「伝える」姿が。最後は皆で練習したカントリーロードを歌って終了。ホストファミリーの皆さんが、「うちの子なんです、すごいでしょ！」と言って笑っている温かくて素敵な空間。この2週間を乗り切ったことで、「自分にもできる」を感じられたかな？



DAY13

AUGUST 17 SAT



ホストファミリーとの最後の休日



名残惜しい最後の休日。最後にお土産を買いに連れて行ってもらった生徒が多かったようで、ショッピングモールで2家族&ちえママが出くわすという偶然。その他にも、湖畔や河原でカナダの自然を満喫したり、映画を見たり、ホストファザーの誕生日会をやったり、結婚式に参列したり、たくさんの経験をした様子。ホストファミリーに渡す手紙作りに勤しんだペアは、翌日、「英語めっちゃ頑張って書いたがって」と写真を見せてくれた。



#水きり楽しかった



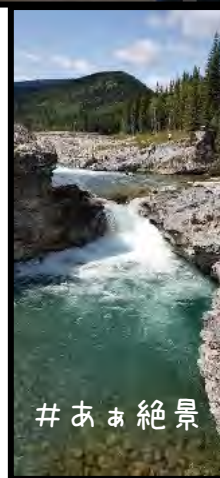
#ダディの
サプライズバースデー



#家族勢ぞろい



#突然の
#結婚式
#サンダルで
#すいません



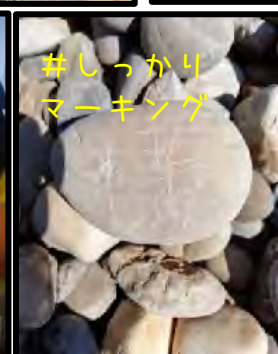
#ああ絶景



#お土産
買うぞー!



#100均のようなお店でお買い物



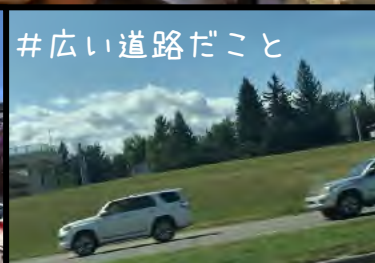
#しっかり
マーキング



#寿司といえば



#映画～



#広い道路だこと



#皆で誕生日を
祝う文化



#行き先被る

DAY14

AUGUST 18 SUN



カナダとのお別れ



カルガリー空港にて最後の振り返り

ホストファミリーに連れられて続々とSCに集まる生徒。その姿はすっかり家族のよう。「あなたが来てくれてよかった」「また絶対来てね」「今度は私たちが日本に行く番だね、迎えてくれるかしら」嬉しい言葉とハグが飛び交う朝。それぞれのホストファミリーとの時間が本当に濃いものだったことを物語る。別れを惜しみながらスクールバスに乗り込んで出発。



道中は、サプライズで空港までついてきてくれたバディのKiannaとZachとおしゃべり。到着し、諸々の手続きを済ませた後、三友紀さんを囲んで振り返り。こみあげる涙をぐっと抑えて、それぞれ熱のこもった言葉で2週間を振り返る。仲間の言葉を胸にしまう。免税店にて余りのお金で最後の買い物をし、パンパンの荷物で、12:45発のフライトに搭乗。





成田・羽田・高知龍馬空港を経て帰郷

三友紀さんから「絶対忘れてしまうから今覚えているうちにこの2週間のことを書こう」とのラストミッションを出された生徒たち。離陸するや否や、携帯のメモやノートに思いを綴り始める。嬉しかったこと、しんどかったこと、楽しかったこと、頑張ったこと、変わったことを記す。書いたら書いた分だけ、いつかきっと財産になる。

成田空港に着いたのは19日の14:35。日付変更線を跨いだので、1日なくなった感覚。日本語だらけで安心してた一行を襲ったのは、とにかくじめじめとした暑さ。カラッとドライな気候のカルガリーと比べ、湿気がすごい。連絡バスまでキャリーケースを引いて少し歩くだけでも汗がダラダラ。「カナダでは汗そんなかかんかったし、かいてもすぐ乾いたのに……」と恋しくなる。

羽田に着くも、ここからが遠い。高知龍馬空港行きのフライトまでおよそ2時間30分。「念のため早めに集合」を差し引いても1時間ちょっとの時間があったので、自由時間を過ごす。



高知龍馬空港では、出発日同様に、ご家族や先生方、「じゅうく。」スタッフが待っていてくれた。疲れた表情を隠せないまま集合写真を撮り、ちえママとハイタッチでお別れをして帰町。思い出たくさん、喋りたいこともたくさん。「じゅうく。」スタッフも訊きたいことがたくさんだったが、どっと出た疲れに勝てずに、ほとんどの生徒が深い眠りにつく。長距離長時間の移動の末、22時ごろに農村環境改善センターに到着したのであった。



研修生作文

上野 仁裕

激動の2週間で 学んだこと

「やらずの後悔よりやって後悔」この言葉は僕がカナダに行こうと決意するのに大きく関わった言葉です。僕は別に海外が嫌いなわけじゃなかったし、むしろ興味がありました。でも、何も学べなかったらどうしようといった不安があり悩んでいました。それでも挑戦しなければ何も得られないと感じていたので思い切って参加しました。

カナダについての8月5日昼頃。不安は全くありませんでした。あまりの自分の落ち着き様に恐怖を感じる程。ホストファミリーとの対面。僕は満面の笑みで挨拶をし、苦手な写真も笑顔で撮り終わりました。家に到着し人生初の海外生活が始まりました。夕食も問題なく楽しく食べ、順調にコミュニケーションが取れ、全てがよい感じだった初日。

しかし、翌日。大きな壁に直面。そして衝突。それは時差ボケ。眠たすぎる。とにかく眠い。眠いと脳が全然働かない。そして周りを見れなくなる。睡魔に負けて自分勝手な行動をしたりもしてしまった。例えば、バスの移動中、後ろの席で一人音楽を聴くとか。バディにもっと話しかけたりしたらよかったなあ、もったいなかったなとめっちゃ思ってます。

でも、最初の壁はまだP波だった。……ということは次に何が来るかは予想できますよね？そう、S波が来たのだ。疲れが溜まって、「一人でいたいモード」突入。突然下がる自分のテンション。これは学校でもある。本当に唐突に。気分が上下が激しすぎるのです。先ほどバディにもっとしゃべればよかったと書きましたが、これもそう思うテンションの時もあれば、疲れてたんだからしゃべらないじゃんっていうテンションの時とがある。こういう自分を変えたいと思う。どうしたらいいかは考え中。

この激動の2週間を乗り越えることが出来たのは、ひとえにホストファミリーのお陰でした。実はみんなとスタディセンターで勉強中の時も、しんどくて笑顔を作れないことがありました。でもホストファミリーと一緒にいる時は、自然と笑顔になれたのです。本当の家族みたいで。自分に向けられた笑顔だと分かったからだと思います。人生で初めて「笑顔ってすげー！」って思いました。「今回のカナダ研修で学んだことは何？」そう聞かれたら、僕は迷わず「笑顔の大切さ」と答えます。学ぶ→行動する→習慣化する→自分が変わる→周りの反応も変わる→生活が変わる・・・僕はこのことをカナダでちょっと体験しました。こういう発見が発展していき、進路につながるのでしょうか。

もうひとつ学んだことがあります。それはヘスースさんとの会話です。ヘスースさんは僕たちが通っていたスタディーセンターがある教会の牧師さんでした。彼は僕たちに「人それぞれ存在するだけで意味がある。人それぞれ提供できるものは違うし、受け取るものも違う。」などの言葉を与えてくれました。自分は高校生という立場で進路に迷っています。したいことなんて見つからないし、職業調べをしていると「僕は世の中に必要なのだろうか？働いて何かあるのだろうか？」などの疑問に苦しめられることがあります。だからヘスースさんとの会話は、僕に希望を与えてくれたし、僕は自分しか提供できないもの……オンリーワンである”ユニークさ”を提供したいと思いました。

また、僕は、「人生において様々な困難があるわけですが、乗り越えるにはどうしたらいいか」という質問をしました。返ってきた答えは「手を差し伸べてくれる友達を大切にする」でした。僕は一瞬呆然としていました。何故なら高校生になり友達とコミュニケーションをとることを非効率と強く考える自分ができ、そのような友達がパッと思いつかなかったからです。だからというわけではないですが、今は頑張って友達と関わっています。

今回のカナダ研修では、僕の心的傾向に大きな影響がありました。そんなことがあったのもすべて挑戦という過程があったからです。僕はこれからも色々なことに挑戦し、気づき、発見していきたいと思っています。



大崎百芽

できる！



「一人で行動するのは無理。」「どうせ変わらんし。」「面倒くさいからやらない。」カナダに行く前の私は、「無理、嫌、めんどくさい。」何をするにもこの言葉を口に出してしまっていました。

興味はあるけど一人だと嫌。事前研修のグループレッスンやオンライン英会話でも伝えるのが怖い、無理。伝わらなかったらどうしよう。カナダに行く前まですごくネガティブなことばかり考えていました。

しかし、カナダに着いてみると、そんな不安をかき消すぐらいのワクワクがたくさんありました。日本にはないような景色、色々な人種の人たち、美男美女たち、そして何より英語でコミュニケーションをとれること！

ワクワクな毎日の中で、新しい発見がたくさんありました。私にはすごく大きいと思っていた「コミュニケーションの壁」は意外と小さいということ、知ってる単語だけで話しても伝わること、ジェスチャーを交えて会話したら伝わりやすいこと。このような新しい発見を通して、私は「自分が思っているより、自分はできること」に気付くことができました。

また、何にでも「誰かと一緒じゃないとできない、一人だと無理」だと思っていた私が、「自分って一人でもできるかも」と思えるようになったエピソードがあります。きっかけは喜久子さんの言葉でした。一生懸命簡単な英語で話しかけてくれるバディのキアナに対して、英語で話さないで日本人だけで話している私たちのグループに、「キアナは皆を楽しませるためにすごく頑張っている。楽しませてもらうだけじゃなくて、こっちがキアナを楽しませてあげようって思わないと。」と言ってくれました。この言葉を聞いて、私は初めてバディの気持ちを考えました。あの時、キアナは本当に楽しかっただろうか？目の前で日本語で話しているのを聞いて、何もわからなくて不安になったり、孤独に感じたりしていなかっただろうか？色々考えて私の行動を振り返ってみるうちに、「このままじゃダメじゃん」と思いました。そこで私はバディに日本の手遊びを教えて一緒に遊ぶことを思いつきました。私一人だけじゃなく、同じグループの2人にも声をかけてみました。実際にやってみると、私たちが日本の遊びを教えただけでなく、キアナからカナダの遊びも教えてもらいました。本当に楽しくて、その日の電車移動はすごく短く感じました。一人で英語でルール説明をしたわけではないし、私が一番説明できたかと聞かれるとそうではないけど、誰にも頼ることなく2人を巻き込むことができたのは、自分にとってすごく大きな成長だと思います。

私は今まで、そもそも人にはその人に合った役割があると思っていました。しかし、この考え方はただの思い込みでした。私は、今までも、今でも、仲の良い友達グループの中では話を聞く役割です。実際にグループの友達の人に聞いてみたところ、私は「話を吸収する係」と言っていました。確かに自分から話題を提供しないし、話を聞くのが好きだなと自分自身すごく感じます。ただそれは、やろうとしていないだけであって、「やろう！これが自分の役割だ！」と思えば、私だって人を巻き込むことができるし、話題を提供することだって出来るのです。これはカナダ研修に参加しないと見つけることができなかった発見だったと思います。

クラスの中で、すごくお調子者で聞くより話すことが得意な子が、実は聞き上手の可能性もあるかもしれない。おとなしくて真面目な子が、実は話し上手で巻き込み上手になるかもしれない。今、私から見えるその人の役割で、その人を限定してはいけない。人にはもっと色々な可能性がある。そして、それは私も同じ。私も、「今の役割＝自分の可能性」ではない。もっと色々なことができる。これが、私の一番のカナダでの学びです。

まだまだ面倒くさがりで、未だに受験勉強には向かう気になりませんが、そんな私もまた私。でも、きっとこの自分にはまだ見ぬ可能性がある。その自分の可能性を信じて、これからたくさんのことに挑戦して、自分の「できる」を増やしていこうと思います。

尾崎 昌広

自分の言葉で 伝えたい



最初は、まさか自分が選ばれるなんて思っていませんでした。バスケットボールが好きで、本場アメリカに興味があり、英語はできたらいいなという思いがありました。でも、苦手。中学校の時は全然勉強しなくて、なかなかひどい点数をとっていました。面接でも上手く答えられた気がしなかった。なので、行けることが決まった時は本当に嬉しくて、とてもワクワクしました。

ですが、英会話レッスンや事前研修をやっていく中で、だんだん「カナダに行く」という実感が湧いてきて、危機感を覚えるようになりました。苦手な英語だけの国で2週間ホームステイをする……それから、毎日少しだけ英単語を練習したり、メールの練習したり、英会話のレッスンしたりして、少しずつ勉強に取り組むようになりました。

そして、ついに研修本番。成田空港に着いたときには、今更ながら海外の治安などを不安に思って怖くなってきました。そして、カナダに着いてからは、当たり前だけど全て英語の環境に、急に自分の英語力に自信がなくなり、どんどん緊張していきました。そんな不安と緊張の中迎えたホストファミリーとの対面。ホストマザーとファザーがめっちゃ笑顔で迎えてくれました。二人は英語が全然わからない僕たち（一緒のホームステイだった詩音も英語は苦手）にも積極的に話しかけてくれて、それまでの緊張が一気にほぐれたのを覚えています。

一番楽しかったのはやっぱり大好きなバスケットボールができたことです。僕たちが通っていたスタディーセンターの広い駐車場にはバスケットゴールがあって、そこでよくバスケットをしている人がいました。僕たちは彼らに“Excuse me”と話しかけて、一緒にバスケットをしました。やっぱり体の大きいカナダの人はキレがあってとても上手で、さらに本気で勝負してくれて、とても楽しい時間になりました。

英語はやっぱりわからないことが多かったけど、自分でコミュニケーションを取ろうと頑張りました。正しい文法で話すことはできなかったけれど、ファミリーや現地の人は僕が何を言おうとしているのかしっかり聞こうとしてくれて、そのおかげで何度もトライすることができました。発音もきつとダメダメだったと思うけど、僕が言う単語を聞き取ってくれて、僕はどんどん自信をつけて何とか単語で会話ができるぐらいまでになりました。

わからない時に頼ったのがGoogle翻訳です。事前研修で使い方を教えてもらったこのアプリには本当に助けられました。家ではこれを使って会話をしていました。今の時代はGoogle翻訳とかを使えば、あっという間に英語にしてくれるから、英語はできるようにならなくてもいいんじゃないか。そんな考えを持つ人もいます。僕もそう思っていました。けど、カナダで過ごして、やっぱり英語は出来るようになった方がいいって思ったのです。スマホを使うとそれを入力するのにどうしても時間はかかるから、スムーズな会話にはなりません。それに下手くそな英語でも自分の言葉で話した方が会話が盛り上がるのがわかったからです。相手の顔を見ながら、自分の言葉で伝えられるようにしたい。それを強く思いました。

日本に帰ってきてからは、勉強に対する意識が少し変わりました。毎日勉強するようになったし、週明けテストの対策もするようになったのです。前までは一切気が向かなかつたし、面倒くさいと思っていました。英語を話すのは別に嫌いじゃなかったし、むしろ好きなほうだったけれど、単語覚えるのがすごく嫌いでした。けれど、カナダに行って英語を勉強するのが習慣になって、やらなければならないと考えるようになったんだと思います。やってみたら週明けテストでもいい点数がとれたので、これを継続していきたいです。

僕はバスケットが好きでNBAの試合もよく見るので、もっと勉強してその試合の実況などを自分で翻訳できるぐらいになりたいです。そしていつかアメリカにNBAの試合を見に行きたいです。

この海外研修は僕が成長しないといけないことをたくさん気づかせてくれる良い経験になった研修だと改めて思いました。

見斗 国海

失敗を 恐れ ない 勇氣

僕が海外研修に参加した理由は、人見知りで話しかけられない、相手の反応が怖くて返せない、声が小さくなる、言いたいことはあるけど言い出せない、そんな自分を変えて、人と話せるようになりたいと思っていました。人見知りで英語も超苦手な僕が、「海外研修に行きたい」と言ったため、親がとてもびっくりしていました。

この海外研修はもともと10名しか行けないところを、13名全員行かせてもらえることになりました。行けることがわかったときはとても嬉しかったです。しかし、僕は英語と自分の気持ちを伝えることが他の人よりも苦手だったため、毎日「じゆうく。」に通って勉強することと、日記を書くことが宿題になりました。最初は、この日記を書くこと自体続けることが出来なくて怒られることもありましたが、日記を続けるうちに、少しずつだけど、自分の意見を言える量が増えていきました。でも、一緒に行くメンバーとの事前研修では、自分の意見を言ったり、アイデアを出したりすることが全然できませんでした。

カナダについてすぐの時は、2週間ここで過ごせるのかとても不安でした。ホストマザーと対面し、ファミリーの家に着くと、ホストファザーが「カナダへようこそ！」と日本語で言ってくれ、なぜだか不安が一気になくなったのを覚えています。ホストファザーとホストマザーがとても優しくしてくれてよかったです。ホストファザーは日曜日にお寿司屋さんや恐竜博物館に連れて行ってってくれました。ホストマザーは毎日おいしいご飯を作ってくれたり、送り迎えをしてくれたり、お土産を買うためのお店に連れて行ってってくれたりしました。とても優しいと思いました。

カナダ研修に参加して、僕には「できた」と思うことがたくさんあります。買い物中、バディのザックに初めて「お金これで足りる？」と英語で話しかけることが出来ました。スターバックスで英語を使って注文することができました。Omatsuriで新聞バックを作るために、お客さん呼び込むことが出来ました。それと、お客さんと英語で会話することもできました。電車の中で知らない人に一人で「日本を知っていますか？」とインタビューできました。恐竜博物館に行った時、ホストファザーに「この服を買います」と英語で伝えることが出来ました。お別れ会でのスピーチを覚えることはできなかったけど、大きな声で発表することが出来ました。最後の日、ザックとキアナに「写真を一緒に撮ろう」と英語で言うことが出来ました。たくさんの「できた」を感じることができて、とても嬉しかったです。

僕が一番印象に残っているのは、カルガリー大学で、「失敗を恐れたら何もできない」と大学生が言っていた言葉です。僕は今まで、失敗や相手の反応が怖くて人と話すことが出来ませんでした。この話を聞いてからは、失敗を恐れることなく話しかけてみるできるようになったと思います。

日本に帰ってきてから感じる自分の変化は、「じゆうく。」のスタッフと前より話せるようになったことです。前はうなずくか、わからないといっておまかせが多かったですが、今ではちゃんと自分の思ったことを伝えるようになりました。あと、前は宿題や勉強のやり方がわからない時に放置していたけど、自分で先生に聞くことが出来るようになりました。あと、今は話すことが楽しいと思えるようになりました。

わからないことは、聞く。失敗を恐れてごまかさない。怖がらない。カナダでできるようになったことを、これからも続けるようにしていきたいです。



黒岩 小雪

弱い私を変えたくて



私は誰かの前に立って行動できる人間。何でも挑戦できる人間。周りの人は私をそんな人だと思っている。あながち間違っていない。私もそう思う。私は人よりプライドが高く、負けず嫌いだ。ゆえに、誰よりも頑張ろうと思う気持ちは強い。でも、ビビりでネガティブな性格でもある。うまくいくイメージがもてないことに挑戦することにとても抵抗がある。それが、研修に参加する前の私だ。

昨年この研修があることを知り、とても興味があったけど、英語は話せないし一日中外国人といるのは怖いしなどと考えて参加しなかった。その選択を私はすごく後悔した。去年同じ歳の子が4人行ってすごいったって思ったし、どこか悔しかった。私が怖気づいている間に、彼らは色んなことを経験しているんだと思うと、負けた気分になった。こういうことを勝ち負けで表すのはおかしいかもしれないが、これがきっかけで今年参加することを決めた。

決めたは良いものの、ビビりが治るわけでもなく、事前研修中はオンラインの英会話レッスンで全然しゃべれなくて、できない自分に腹が立っていた。

万全な状態でカナダに行くことができず不安でいっぱいだった。行ってからも、やはりカナダの人が何を言っているのかわからないし、自分の英語では伝わらないのではないかと考え、うまく話すことができない。一緒に行くこと決めた3人はバディともよく話しているように見え、一人劣っている自分がすごく悔しかった。

悔しくて、負けたくなくて、そんな気持ちが爆発しそうになっていた3日目、「上手くなくていいんだ。」ふいにそう思った。それは、バディと楽しそうに喋っている友人に「なんでそんなにしゃべれるの？」と聞いたら、「ノリとテンションだよー笑」と返ってきた時だった。私は、頭では間違いなんて気にしちゃだめだとわかっていても、完璧でありたいと思う性格から、失敗を恐れ、気付かないうちに逃げていた。このことに改めて気付き、少し自分が変わった。下手でいいからとりあえずチャレンジする。周りに負けたくない、弱い自分に負けたくない、そう強く思い、たくさんコミュニケーションを取るよう話しかけた。一人でも行動できる人になりたくてグループ行動では一番に行動したり、勇気を出して積極的に発言するようにしていたら、いつの間にか成功するかわからないことでも行動できるようになった。これが研修前半の私の変化だ。

このように、どこか開き直った私の後半1週間は、一歩成長した私で不安なく楽しく過ごすことができた。

ネガティブなものビビりなものも治ったわけじゃない。でも、私の強みだと思える負けず嫌いと思える努力することは、さらに磨きがかかったと思う。帰国後の自分は、どんな場合でも自分の意思をしっかり持つことと、何でもとりあえず挑戦してみることに努めている。授業中の発言が増えたり、学校外のイベントにも参加するようになった。「選ばなくて」後悔するより「選んで」後悔しよう。私の思考は割とポジティブになってきていると思う。

「カナダに行って学んだことがそれ？」と言われるかもしれないが、私にとっては大きな大きな成長となった。「できない」で終わらせる前の私じゃなく、「とりあえずやってみる」と挑戦し、新しいものを見つけようとする私になりたい。そう思えるようになったことは、これからの私の人生にとってとても意味のあるものだと思う。

私は理想が高い。完璧な人間でありたいと思う。私はそんな「なりたい自分」になる第一歩をこの海外研修で踏み出すことが出来た。

私の夢はニューヨーカー。五番街を颯爽と歩くビジネスウーマンになる！！

谷口 優 菜

挑戦と

変化の日々



私がこの海外研修に参加しようと思った理由は、新しいことにチャレンジしたいから、消極的でマイナス思考な自分を変えたいからでした。でも、何よりカナダに行きたかったのです。そのために、窪川高校に来たといっても過言ではないほどに。

こうして、6割の楽しみと4割の不安を抱えて幕を開けた海外研修は、楽しいこともたくさんありましたが、苦痛の日々でもありました。人前での発表や、意見を言うことなど、私が苦手な物を挙げたらきりがありません。対して周りの人はみんな社交的で、私のように内気な人はいないように思えて、孤独感をずっと感じていたし、うまく輪に入れないことでみんなに迷惑をかけたくないと思っていました。

そんな私を変えてくれたのは、バディのリリーでした。彼女は、私を含めいつもみんなを助けていたし、気を利かせて手伝っていました。私が、バスの中の人にインタビューするのに手こずっていたら、すぐに近くに来て助けてくれました。この時の私は、無視されたらどうしようという不安に駆られ、インタビューするのをためらっていました。そんな私にリリーは、「You can do it.」と言って励ましてくれました。彼女の応援を受けインタビューしたのですが、インタビューした人もネイティブではなく、事前に用意していた文章では難しく伝わっていませんでした。これもまたリリーが簡単な言い回しに変えてくれました。私は、助けてもらってばかりだなと情けなく思ったのと同時に、親切に答えてくれて嬉しいという思いがわいてきました。よく考えれば無視する人なんてそう居るはずなのに、一体何に怯えていたのでしょうか。

この時から、私は以前と比べて積極的に動くようになりました。その中で、リリーのように人のために動けるようになりたいと思い始めました。しかし、ここでも私の内気な性格が邪魔をしました。助けが必要な人がいる状況で一步踏み出せず、私に助けられることはないのではと、手を差し伸べられないことが続きました。

悶々とした日々を送っていると、そんな悩みに光が差すような出来事が起こりました。11日目、牧師さんの「人は99パーセント同じように創られている。残りの1パーセントの個性で人に何か与えることが大事。そしてこの1パーセントは誰もが持っている。」という言葉。これを機にこの日までの私を振り返ってみると、ピザの買い出しで荷物を持ったり、お祭りフェスティバルの準備や本番で、屋台の手伝いや後片付けなど裏方に回ってみんなを支えたり、そしてそれを楽しんでいる自分があることに気が付きました。これが初めて胸を張って言える私の個性です。かといって、内気なままではこの個性は生かせません。幸い、この研修中は必然的に人前に出なければならぬことが多かったので、度胸も鍛えられました。

今私は、自分の個性をめいっぱい生かすため、授業中での発言、新しい部活への入部など様々なことに挑戦しています。小さいことからだけど、自分の意志で行動するようになりました。部活は地域探求同好会に入りました。活動方針を決める時も、自分のやりたいことを主張し、貫き通しました。やろうと思っても勇気が出なくてできなかったことも、怖がらずにできるようになりました。

あの子でも変わったんだから私だって変わる。いつかそんな風に思ってもらえるよう、日々を過ごしていきます。

近添 琴音

音楽と私



私が今回の海外研修に参加しようと思った理由は、「海外に行けるし二度といけんかもしれんき、行ってきいや。」というお母さんの一言。行くからには自分なりの理由があるので、私はその時海外の文化を知りたいという気持ちがあったので、「海外に行って日本の文化を伝えたい、海外の文化を知りたい」ということを目的にカナダ行くことを決意しました。

最初は不安がたくさんありました。けど、行ってみたらたくさん楽しめました。途中、偏頭痛に悩まされることになって辛かったけど、同じチームのバディとかメンバーが気づいてくれて一緒に歩いてくれたり、私のバックを持ってくれたりと親切にしてくれてとても嬉しかったし、皆には本当に感謝しています。

カナダ研修の中で特に楽しかった思い出が2つあります。1つ目はホストファミリーの友達の家遊びに行けたことです。私が想像していたのは親同士で世間話をしている中、友達同士でカードゲームやテレビゲームをしているのかなって思っていました。けど全然違って、友達同士で集まって音楽をすごい音量で流したり、ビリヤードをしたりダンスを踊ったりしていました。思わず私は一緒にステイしていた友達に「ここはクラブですか?」と言ってしまいました。いや日本人なら誰も驚くのではないのでしょうか。友達の家に行くと親はいませんでした。私の推測ですが、カナダでは私たちの年齢になると車を運転することができるということから、ホームパーティーをする時も、親はいなくていいという感覚なのかなと思いました。音楽を家の中でガンガン流してダンスをする経験は、人生で初めてでとても興奮しました。

2つ目は、ホストファミリーとの車の中での会話です。私のホストファミリー先は運転の時によく音楽をかけていました。私は音楽を聴くことが一番好きです。なので、音楽の会話をたくさんすることができました。ホストファミリーに「その歌は誰が歌ってるの?」と聞くと「カミラカペラ」だよと教えてくれました。少し前から彼女のことは知っていましたが、曲をあまり聴いたことがなかったので、いい曲を見つけたなあと少し幸せになりました。さらにリビングで「ビリーアイリッシュ」という海外アーティストの音楽をかけていると、ホストファミリーのお兄ちゃんが「ビリーアイリッシュだよ?」と話しかけてくれました。私は思わず「YES!!」と答え、彼は「GOOD!!」と返してくれました。少ししか会話が続かなかったけれど、とても嬉しかったです。それからお兄ちゃんはすぐに車の中でビリーアイリッシュの曲を流してくれました。とても嬉しかったし、一緒に盛り上がったので幸せでした。

改めて思い返してみると、私が楽しいと感じた2つのことは、両方「音楽」に関することでした。私は音楽が大好きです。自分にとっての音楽は、自分の感情とか自分の気持ちを表現する手段だと思っています。例えば、「悲しい」と一言で言っても、そのときの状況によって感じている悲しさは様々です。それをなかなか言葉で表すことはできないけど、音楽だったら私の代わりにたくさんの「悲しい」を表現してくれます。それが、音楽の素晴らしさだと思っています。

しかし、このカナダ研修を通して、私は音楽のもう1つの力に気付くことが出来ました。それは「人と人を繋ぐ」ということです。私は、英語が得意ではありません。カナダのこともあまり知りません。でも、音楽を通して、会話をすることができたり、言葉があまり通じなくても一緒に楽しい時間を過ごすことができました。音楽ってすごい。音楽は全世界共通で、全人類が楽しんでいる。そう考えると、音楽って私が思っているよりもずっとすごいもので、パワーを持っているんだなあってことに気付きました。

私は、将来保育士になりたいと思っています。それは、子どもが好きだし、何より好きな音楽を仕事に活かせると思っているからです。今回のカナダ研修で改めて気付いた音楽の良さ、「自分を表現すること」や「人を繋ぐこと」を伝えられる保育士になりたい。今はそんなことを思っています。

中屋輝子

一歩踏み出す

勇気



私がこのカナダ研修のことを知ったのは中学生の時でした。その時は「英語も話せないのに海外に行っても意味ないやん」と、自分には全然関係ない話だと思っていました。英語も海外も好きな母には、何回も「行きやー行きやー」と言われていたけど、「無理に決まっちゃうやん！」と毎回返していました。私は英語を話すのがとても苦手で、学校の授業でもほとんど話そうとしていなかったし、そもそも自分からこのような大きなイベントに参加することに抵抗がありました。

高校に入学して「じゅうく。」に通い始めると、やはり「じゅうく。」スタッフの人からカナダ研修の話があって、最初に聞いた時は中学生の時と一緒に「絶対参加せん」という思いが強かったです。だけど、来年はないということを知り、この機会を逃したら私はずっと英語に対する苦手意識を持ったまま英語を勉強していくのかと迷いしました。英語を話せるようになりたいとはすごく思っていたので、英語を話さざるを得ない環境に身を置いたら話せるようになるかもしれない、英語をもっと好きになるかもしれない、何かしら変われるんじゃないか、成長できるんじゃないかと考えるようになり、この研修に参加することを決意しました。

事前研修が始まりメンバーが全員揃うと、窪川高校の人は皆知らない人で、こんなにも緊張するんだととても焦りました。こんなはずじゃなかったのにと一気に不安になったことを覚えています。でも、なんでこんなに優しいんだろうと思うぐらい皆優しくて驚きました。特に窪川高校の2年生はいつも話しかけてくれたり、私が一人にならないように席を替わってくれたりして本当にありがたかったです。でもやっぱり緊張は消えませんでした。

カナダ研修は本番が始まったら琴音ちゃんと茉優ちゃんが話しかけてくれて一緒に行動してくれたし、一緒にいて常に楽しくて仲良くなれて本当に嬉しかったです。友達は大切だなと改めて感じました。最初の方は、バディや英語の先生に全然話しかけられなかったのですが、そのまま研修が終わってしまうのが嫌だったので、自分から積極的にバディの所に行って話しかけました。すると、とても楽しくて、英語を上手に話せなくてもこんなに伝わって会話できるんだなと思い、間違いなんて気にせずにとんどんやってみることが大切だと気づきました。以前の私にはなかった気持ちです。

カルガリー大学の学生さんと電車に乗った時、近くにいたけど話しかける勇気がなくて何もしていなかった私を喜久子さんが後押ししてくれて話しかけることができました。相手も楽しそうに聞いてくれて、何事もまずはやってみることだなと思いました。質問も積極的にしました。Omatsuriでもたくさんの人と話せました。毎日新しい出会いがあったり、出来るようになっていく自分を感じ、自分でも驚くくらいカナダでの生活がどんどんどんどん楽しくなっていました。帰国の時は本当に日本に帰りたくないと思いました。

私は、このカナダ研修に参加して、不安なことが山ほどあったとしても、何も行動を起こさないと何も変わらないということを経験しました。勇気を出してチャレンジしてみること、行動することの大切さを学んだと思います。この研修に参加しての後悔は全くありません。本当に毎日が充実していて、自分の欠点がよく分かったし、得られるものもたくさんありました。英語に対する意識も変わり、外国にもとても興味を持つようになりました。カナダ研修での気づきをこれからの成長に活かしたいです。

那須音詩

諦めなかつたら
できる

今回のカナダ研修は、僕の人生で一番最高の経験となりました。とにかく最高。もうこれしか言えません。

カナダ研修で楽しかったことベスト3を発表します。第1位は新聞ばっく作りです。それまで思っていた「初対面の人に英語で話すなんて絶対無理」という考えが完全に覆ったからです。それどころか、話すことが楽しいと思えるようになったんです。なぜなら、カナダの人たちが自分の英語に耳を傾けてくれて、理解しようとしてくれたから。自分も一生懸命伝えようと身振り手振りを使っていると、いつのまにか新聞ばっくが完成したのです。途中からは、ブースを離れて売り出しに行くこともできました。もちろん、話す言語は英語だけ。緊張はしましたが、買ってもらえた時はとても嬉しかったです。

第2位はダウンタウンに行ったことです。いくつかのお題に答えながら目的地まで行くレースを行いました。その中で、カナダの人にインタビューをしたり、道を聞くことができました。新聞ばっくの時とは違い、日本にあまり興味がない人や、忙しい人がターゲット。今回は無視されるかもしれないという不安がありました。しかし、実際はみんな優しく答えてくれ、僕は一度も無視されることがありませんでした。

第3位はストリートバスケットです。僕とホームステイ先が一緒だった昌広もバスケットが好きだったので、バスケットボールを一緒に買って、近くの公園でほぼ毎日ストリートバスケットをしました。そこで近所の人と会うことができました。同じようにバスケットをしに来た近所の子供と一緒にバスケットの試合をしたり、ロードバイクの練習をしにきた人と話すことができました。バスケットの試合をする時はチームに分けるのが大変でした。カナダにはグッパーでチームを分ける文化がなかったのです。じゃんけんはあってもグッパーがないことに驚きました。なんとかかんとか説明をしたら通じて、チーム分けをすることができたので嬉しかったです。

まだまだ楽しい思い出を語り出したら止まりません。こんな楽しい思い出ばかりができたこと、そしてそれが自分の人生で一番の思い出になるなんて、1年前の自分には想像もつきませんでした。

高校選びの時、母に「四万十高校に入るなら海外研修に行け」と言われていました。僕は「そんなことになるなら別の学校に行った方がいい」と思うぐらい海外研修に行きたくなかったのです。英語自体は嫌いではないけど、クラスで1、2位を争う苦手っぷり。基本おしゃべりな僕ですが、話しかけられるのが怖かったのでALTの先生とは一定の距離をとっていました。外国人と話すのは嫌、海外になんて一度も行ってみたいと思ったことがない。それが中学校の時の僕です。しかし、これはなぜなのか今考えてもわからないのですが、高校に入ってなんとなく行きたくなって、周りの参加を決めた同級生にも流され、その時のテンションで行くことに決めました。

この経験から僕が学んだことは、「できないと思ったことでもやってみたほうがいい」ということです。この研修がこんなに大切な思い出になるなんて、やってみなければわかりませんでした。新聞ばっくを教えることや、他の人の家で、英語だけで2週間生活することなんて、英語が大の苦手の僕ができるなんて思いませんでした。けど、やってみたら全部できました。あの時、できないと諦めていたらこの素晴らしい経験ができなかったのです。

僕は課題を期限までに済ませるのが苦手です。これまで長期休みの課題を終わらせたことがありませんでした。最初から「無理」と諦めていたからです。しかし、今回は諦めませんでした。そしたら、夏休みの宿題を人生で初めて期限内に出せました。学校の先生に「信じられない!」という顔で二度見されたことは忘れられません(笑)

あの時、ノリとテンションで決めた海外研修への参加。僕は参加したことを一切後悔していません。これからはボランティアに参加するとか、これまでできなかったことに挑戦してみたいです。そして、またカナダに行きたいです。



仁井菜貴

脱・めんどくさがり屋！

私はめんどくさがり屋です。何をするにも「めんどくさい」と思ってしまいます。例えば、クラスで誰がどの委員会に入るかを決める時などに、どうせ誰かがやってくれるだろうと思って自分から手を挙げることもなかったし、体育祭の係決めも人任せ。地域で行われるボランティア清掃や「じゆうく。」主催のイベントとかマストじゃないものは、わざわざ時間をかけて行こうという気になりませんでした。しかし、2年生になって、このままでいいのかなって思うがしてきました。進路も全然決まらない、やりたいことも見つからない、勉強も身に入らない…変わらなくちゃいけないのかも。そんな時に、この海外研修の話がありました。知らない土地で知らない人と一緒にいることで、人任せにはできず少しでも自分から動くということが身につけばいいと思って参加しました。

そんな思いから始まった2週間のカナダ研修では、たくさんの思い出ができ、良い経験をすることができました。思い出を語り出せば止まらないのですが、一番感謝したいのはホストファミリーです。私と輝子ちゃんのスティー先はナイジェリア出身の家族でした。到着した初日、私たちはめっちゃ緊張していましたが、丁寧にゆっくり話をしてくれ、英語が聞き取れない私たちに何回も何回も説明してくれるパパママと、やたらと人懐っこい子どもたちのお陰で、本当に楽しい2週間を過ごすことが出来ました。子どもたちとは、飛行機の折り方を教えて遊んだり、写真を一緒に撮ったり追いかけてこをしたり。カナダを離れるときは本当に悲しくて、朝から号泣してしまいました。遠いカナダに新しい家族が出来たことが嬉しかったです。

カナダに行って学んだことは「自分から行動しないと始まらないんだから、まずはやってみる」ということです。私は英語が得意じゃないので、最初はバディや先生に話しかけることが出来ませんでした。3日目のヘリテッジパークに行った時に、バディのキアナとアトラクションに乗りたいと思ったけど、話しかけることが出来ませんでした。添乗員の千重美さんに背中を押され、えーい！と勢いでキアナのところに行き、アトラクションを指さして「I want! this! ride!」ぐらい適当な単語を並べて伝えてみたら、伝わって一緒に行こうとなったのです。そこから私は、ノリと勢いでどんどん会話をするようになりました。なんだ、できるじゃん。

また、やりたいことがないと思っていた進路についても大きな発見がありました。カナダで喜久子さんと話をした時に、今は興味のあるものがないという話をすると、喜久子さんは、「英語は？海外は？じゃあ、添乗員の千重美さんのお仕事は？」と私に聞きました。千重美さんのお仕事は、人の話を聞く仕事で、1年のうちの2/3を海外で過ごすってこととか、英語喋れるのとかがかっこいいなって思いました。そこで、『国際文化』というキーワードを教えてもらいました。その国の言葉だけじゃなくて、その文化とか歴史的背景とかを勉強すると聞き、とても面白そうだと思いました。その時喜久子さんに「なっちゃんは、興味のあることが無いんじゃないかって考えてないだけだよ」言われて、はっと気がきました。そうか、私は将来について考えることもめんどくさがって行動してなくて、そして「やりたいことが見つからない」って嘆いてたのかと。ここでも、「まずはやってみる」ということが大切なんだって思いました。

今では、このカナダで気付いた「まずはやってみる」ことを大切にしています。カナダに行く前は、興味がなく自分には関係がないと思い、参加するつもりがなかったシゴトフェスに参加したり、キギョウサイの司会を友達と一緒にやったりしました。シゴトフェスでは、普段は一緒に話をすることができないような人達と話をすることができて色々な事を感じることができました。これも、めんどくさがって参加しなかったらできなかった経験です。これからは最初から嫌と決めつけなくて、まずは自分から動くことを大切にしていきたいと思います。脱・めんどくさがり屋！



林巧人

新しいことを
する楽しさ



高校入学してすぐに僕が興味を持ったのがこの海外研修でした。安い価格でカナダに2週間行けるのはとても得だと思い応募しました。行けることが決まり、事前研修が始まりました。最初は楽しくやっていたけれど、何回か行った頃から、英語の練習をほとんどせず道徳みたいなことばかりしている感じに、僕は正直意味がないと思っていました。また、窪川高校のメンバーとも一向に喋れるようにはならず、その時間もあまり楽しく過ごすことができませんでした。

そして本番。事前研修で全然自分から話すことができない自分に不安を感じたけれど、まずは楽しんでこようという軽い気持ちに切り替えて、いざホームステイ。すると、意外にも僕は自分から疑問を英語で伝えようとすることができました。伝えるために英語を出してみたら、思った以上に相手に伝わるということがわかりました。これなら誰とでもできそうだなと自信をつけ、その後はパディとバスで隣に座り、自分から町のことやこれから行く場所、建物についてなどを質問して教えてもらいました。この時の自分は、今思い返しても凄かったと思います。

大きな学びを得たのは、カナダに行って10日目のことでした。僕らはGrowCalgaryという団体を運営しているポールさんの話を聞きました。彼は、カナダの余っている土地を農地に変えて、食べ物もろくに食べていない人たちに食料を分け与える活動をしていました。その人は、自分の利益のためではなく誰かのために行動している人でした。僕は最初、そのような考えを持っている人は、実際何をしているかが分からないと思い、あまり興味を持って聞く気になりませんでした。けれど、話をしてくれた時も、計画を進めるためにカナダの北部にいて、わざわざビデオ通話で話してくれ、僕たち一人一人の質問にユーモアを交えながら真剣に答えてくれて、とてもすごいと思いました。こんな人になりたいとも思いました。

けれど、「失敗した時の事を考えると、怖くて僕にはできそうにない」と考えた時に、ふと引率の先生がカナダに来てすぐに言っていた言葉を思い出しました。それは「挑戦のリスクと得られること」の話でした。何かした時、もし失敗したとしても、とても大きなことをしていない限り失うものなんてなく、むしろ失敗を通して得る経験の方が大きいという言葉でした。これを思い出した時に、僕は自分が周りからどう思われるかを気にしていたり、面倒だと思っていたりなどの理由で、大事な経験のチャンスを逃していることに気づき、もったいないと思えるようになりました。そこから自分が考えたり感じたりしたことは自分の中で閉じ込めていくべきではなく、他の人に伝えたりしたほうが良いと行動で表現できるようになりました。そこから発表などの時、少しだけだけ一番に動けるようになりました。これも僕にとって大きな変化です。

カナダでの経験から僕が今思うことは、新しいことをするって楽しいんだということです。新しい場所に行き、新しい知識を得ること。新しい人に会って、新しい考え方を知り、新しい自分に出会うこと。新しいことに会うためには、自分から行動しないとイケない。「新しい楽しさ」を求めて、これからも行動していきたいです。

正直、今はまだ「カナダ行って成長したんだろう」という、他の人からのプレッシャーを感じて、学んだことを心がけている所があると思います。けれど、それがなくなっても続けていけるようになれば、もっとありがたい自分になれると思うので頑張っていきます。

間崎
花帆I'm proud
of myself.

「私なんて。」これが私のいつも思っていることでした。いつもマイナス思考で、否定されることを恐れて、言いたいことが言えない。そんな自分が大嫌い。

カナダ研修は、母からも「じゅうく。」のスタッフさんからも誘われました。けれど、特別英語が出来るわけでもない、飛び抜けてコミュニケーション力があるわけでもない、そんな私が行っても意味がないと思っていました。そう思い続けていたある日の放課後、友達に「ねえカナダ一緒に行こうや！」そう言われました。その時の私は「行くのが怖い」という気持ちとは別に「自分を変えたい」という気持ちが芽生え始めていました。そして、思い切って参加することを決めました。

事前学習をしていくうちに「自分を変えたい」という思いがどんどん明確になっていきました。ネガティブな自分を変えたい。ぐじぐじ考えている自分をやめたい。そこで私は、ホームステイのペアを決める時、人数の関係で女子で一人になる子がいると聞き、勇気を出して手を挙げました。それからは期待と不安が行き交う日々。自分が変わるかもしれない。けれど私なんか本当一人で2週間やっていけるのか…何かに押しつぶされそうな感覚でした。

そんな状態で迎えたカナダ研修。最初の1週間で私が感じたのは成長でもなく、楽しさでもなく、「不安」。それだけでした。ステイ先では英語が通じない、言いたいことが伝わらない、その繰り返し。スタディーセンターで皆が「昨日はたくさん話せた！」とか「一緒に〇〇できた！」などと話しているのを聞いて、「なんで私はできないんだろう」と悔しく思っていました。でもどうしたらいいかわからない。

ある日、喜久子さんにホームステイの様子を聞かれ、正直に全てを話しました。すると、全てがダメだと思っている私に、「良かったことと、改善すべきことを分けて考えてごらん」とアドバイスしてくれました。私はそれまで、できるようになったこともたくさんあるのに、できていないところ、まだ足りないところにばかり目を向けて、全部がダメだと思い込んでいたのです。その日の夜から早速そのことを日記に記してみました。その後の自分は、自分の良かったことと、改善した方がいいことを分けて考えられるようになり、「とにかくやってみよう精神」でコミュニケーションをたくさんとるようになりました。帰国する日が近づくにつれて、帰りたくないとも思うようになっていきました。

私がカナダにいた2週間の中でとても心に残っている言葉が”I'm proud of you.”「あなたを誇りに思っています。」です。これはホストファザーが私にかけてくれた言葉です。私は日常で褒められることがあまり無く、あってもその褒め言葉をプレッシャーに感じて素直に受け取れませんでした。ですが、その時に言われた”I'm proud of you.”という褒め言葉は、本当に素直に心から嬉しかったのを覚えています。それから、最終日の帰る時、ホストファミリーの前で号泣して、何も言えなかった私にまた、”I'm proud of you.”そう何度も言ってくれました。

今も、前ほどではないけど、まだネガティブな考え方はあります。やはり他の人に否定されそうで、本当の自分を見せるのが怖いです。毎日頭の中で反省会が行なわれています。でも、私自身を全て否定することはなくなりました。もしかしたら、ネガティブな私も私の個性なのかもしれない。ちょっと考えすぎて疲れることは多いけど、こんな自分も認めていけるようになったらいいなと思っています。

I'm proud of myself. 私は私を誇りに思って生きていきます。



横田航希

熱く生きる



僕は小さいころ、THEパリピな男でした。パーティーピーポーです。楽しいこと大好き、おしゃべり大好き、いつもくだらないことをして人を笑わせたいと思っていました。喜びや楽しさを全身で表現して、心の底から大声で笑っていました。

しかし、現状の僕は、「見た目は静か、中身はパリピ」。まるでどこぞのアニメの主人公のようです。なぜそんな風になったのか。……あれは中学校2、3年生の頃でした。元来、積極的で何でも挑戦していた幼い頃の僕。しかし、思春期にもなると、他の子たちが自分よりどんどん積極的になっていって、いつのまにか僕は自分の積極性を出すことをやめてしまっていました。自分がやらなくても誰かがやってくれる。面倒なことは任せよう。だんだん口数も減っていき、いつしか他の人の目を恐れて自分を表現しなくなっていました……。こうして、先ほどの「見た目は静か、中身はパリピ、その名も横田航希」が出来上がったのです。

そんな自分を変えたいという思いで参加した海外研修。カナダで過ごした15日間は、挑戦の連続でした。街で知らない人に質問したり、新聞ばつぐを売り込みに行ったり、ホストファザーに「バスケットをしたい」とか「お土産を買いに行きたい」などの要望を伝えたり。どれも小さなことですが、僕にとっては全てとても勇気のいることでした。それは、普段は静かにしていて、失敗を恐れて自分からチャレンジしてこなかったからだと思います。

でも、このような小さな挑戦を何度も何度も繰り返すうちに、「怖い」という気持ちは薄れていき、次第に「何でもやってみよう!!」という心が、僕のなかでマグマのように溢れだしたのです！そこから「バディやホストファミリーともっと話したい!」という欲が生まれ、英語を調べて話しかけたりする努力をしました。そうすると、楽しかったカナダ滞在がもっともっと楽しくなっていくのです。

挑戦って楽しい、何かに挑むことって燃える。カナダ研修を経て、僕はこんな風なことに気付きました。「気付いた」のではなく、「思い出した」というほうが正確かもしれません。特に、今は「SASUKE魂」が爆発しています。カナダに行く前から興味があって、少しずつトレーニングをしていました。帰国してからは、以前よりハードにトレーニングをするようになり、Youtubeで毎日のようにSASUKEの動画を見ている。僕がSASUKEに憧れるのは、Mr.SASUKEと呼ばれている人の影響があります。彼は、賞金が欲しくてSASUKEに挑戦しているのではなく、生きた証を残すためだと言っていて、その生き方がとってもカッコいいと思ったからです。SASUKEは僕に再び熱を持たせてくれました。カナダ研修での挑戦がなければ、SASUKEへの挑戦なんてとっくに諦めていたと思います。

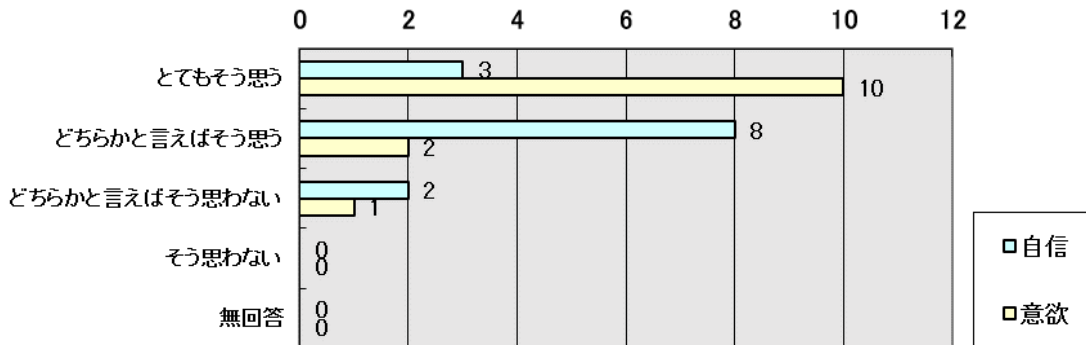
もうひとつ今、熱を持っているのが「起業」です。実は中学校の時から起業することに興味を持っていました。自分の想いを形にし、他の人と違うことをする「起業」ということに憧れがあったのです。しかし、起業なんてすごく遠いことだし、言ってもなあという気持ちから、誰にもそのことを話すことはありませんでした。帰国してから「何でもやりたい熱」の強かった僕は、「じゅーく。」が開催する色々なイベントに顔を出すようになりました。そこで、実際に会社を起こした社長さんの話や、四万十町や高知県で起業した人の話を聞いて、「起業」を身近に感じるようになり、自分もやってみたくて強く考えるようになったのです。今はビジネスプランを考えて、高校生のうちに起業してみたいなと思っています！

まだまだ、パリピと言えるほどの自分をどこでも出せるわけじゃないけど、これからも、「熱を持って何でも挑戦する」ことを心に刻んで、中身も、行動も積極的にして、自分らしい自分を表現できるようにしていきたいと思っています。

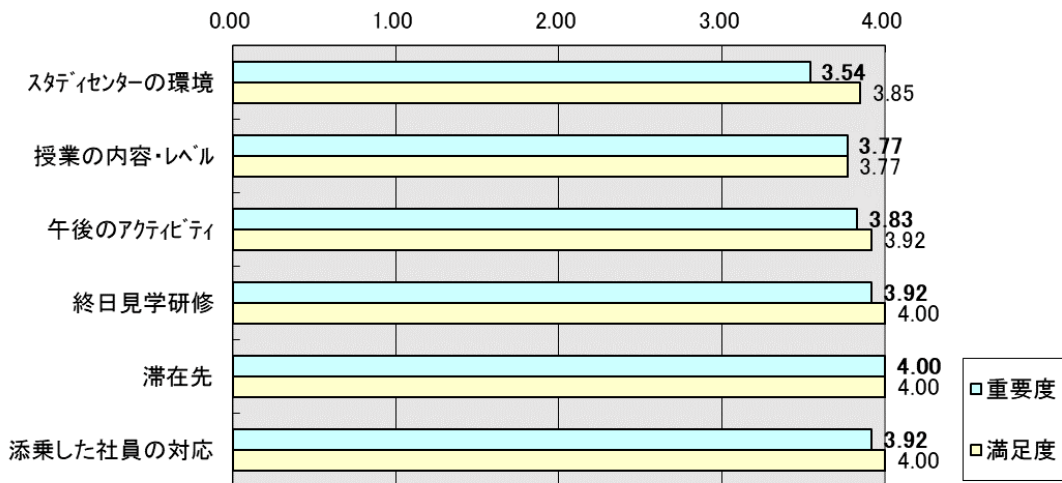
研修生・保護者アンケート

アンケート(研修生)

1. 英語に自信が持てるようになりましたか。(自信)
 英語をもっと勉強しなくてはならないと思いましたか。(意欲)

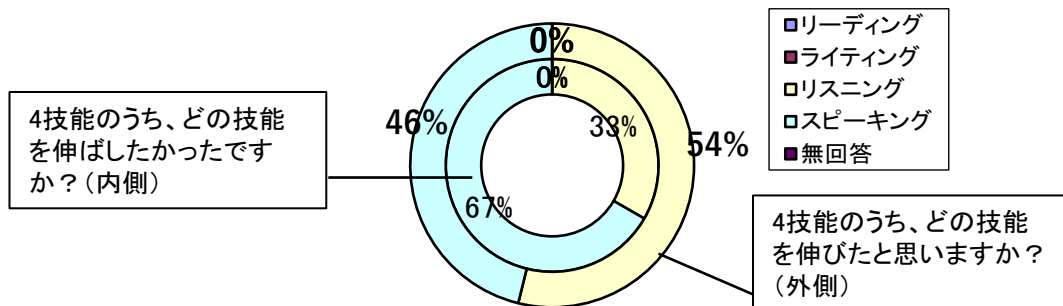


2. 現地でのことについてあなたにとっての重要度と実際の満足度を教えてください。

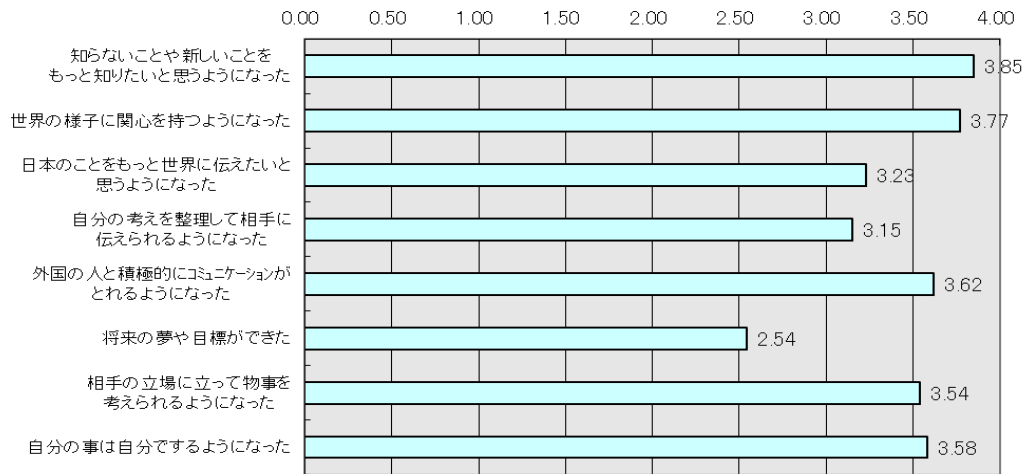


グラフの数値は「1重要(満足)」を4ポイント、「2やや重要(やや満足)」を3ポイント、「3あまり重要でない(やや不満)」を2ポイント、「4重要でない(不満)」を1ポイントとした場合のポイントの平均値。通常、3以上であればその満足度は高く、3未満であればあまり高くはない。2.5ポイント以下であればかなり低いと言える。

3. (参加前に) 英語の4技能でどの技能を最も伸ばしたかったですか。(内側)
 (参加後に) 今回のプログラムで、どの力が一番伸びたと思いますか。(外側)

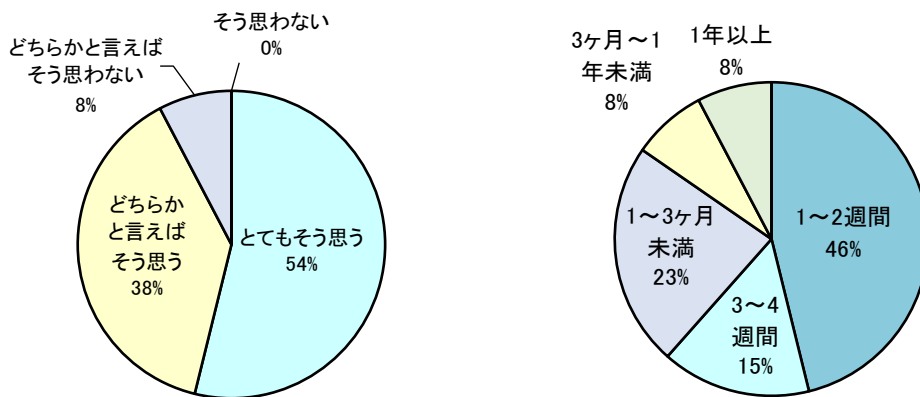


4. プログラムに参加して、自分の中で変わったと思うことについて、回答してください。



グラフの数値は「1重要（満足）」を4ポイント、「2やや重要（やや満足）」を3ポイント、「3あまり重要でない（やや不満）」を2ポイント、「4重要でない（不満）」を1ポイントとした場合のポイントの平均値。通常、3以上であればその満足度は高く、3未満であればあまり高くはない。2.5ポイント以下であればかなり低いと言える。

5. また海外のプログラムに参加したいですか？どのくらいの期間行きたいですか？

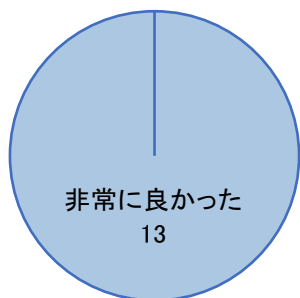


6. 全体を通して感じたことを教えてください。

- ・ホームステイで現地の生活を知れて良かった。
- ・ホストファミリーの笑顔が嬉しかった。
- ・いろんな人が協力してくれて嬉しかった。
- ・英語をきちんと話せなかったが、相手が汲み取ってくれて、思っていたより言葉が通じた。
- ・とても自分のためになったし、楽しかった。とても充実した研修だった。
- ・外国に興味を持てた。イメージも変わって、また行きたいと思った。
- ・英語をもっと勉強したい。
- ・カルガリータワーに登れなかったのが残念。
- ・コミュニケーションをとることの楽しさを感じた。カナダの様々な場所に行けたのが良かった。
- ・自分で様々なことにチャレンジ出来る学習内容がとても良かった。
- ・実際にカナダの色々な場所に行き、カナダの事を学ぶことが出来た。
- ・「やってみよう！！」と挑戦することが出来るようになった。
- ・バンフがすごくきれいだった。
- ・添乗員さんがとても話しやすかった。将来の事を考えるきっかけになった。
- ・カナダを好きになった。

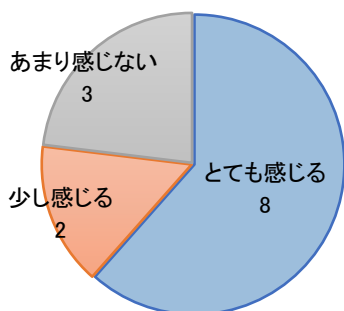
アンケート(保護者)

1. お子様は海外研修に参加して良かったと感じますか。



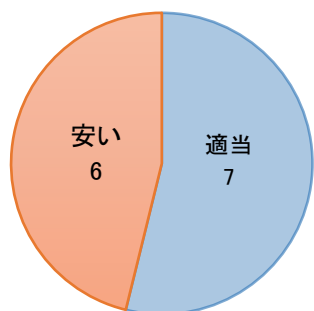
- ・貴重な体験ができた。やってみようとする力があることがわかった。
- ・視野が広がった。
- ・文化の違いに触れることができて良かった。
- ・多様性を認めることがあたりまえである感覚が身についたのでは、と感じる。
- ・自分で考え動くということが、海外研修を通して身についたと感じる。
- ・英語=苦手な教科から、英語=コミュニケーションを取る方法の1つになった。
- ・とりあえずやってみることを、楽しんでいたように思う。
- ・チャレンジさせて良かった。事前の研修の充実度や目的がすばらしかった。
- ・申し込む前は、海外へ行くことへに不安を感じて嫌がっていた。「何事もチャレンジ。必ず視野も広がるし、自分の成長に繋がる」という話をして送り出した。帰ってきて本人から「あの時言われたことがわかった。行って良かった」という言葉が聞けた。また1つ成長を感じた。

2. 海外研修に参加してお子様の変化を感じますか。



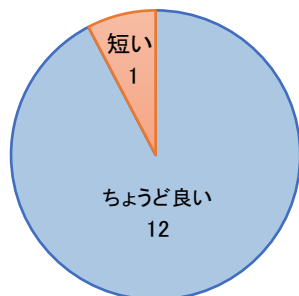
- ・日本とカナダを比較し、口にするようになった。
- ・進路のことを真剣に考えるようになった。
- ・前よりも人と関わるようになった。
- ・日常で自然に英語を使うときがある。
- ・日常の(日本の)価値観が正しい(あたりまえ)という枠はずれ、多様性を認める感覚や、その人らしく豊かに生きることが大切であるという概念を得たのではないかと感じる。
- ・自分で決めて行動することが多くなった。決めたことに理由があり、目的を話すようになった。
- ・夏休みの宿題を初めて夏休み中に終わらせて提出できた。
- ・帰国当初はいつもとかわらない様子だったが、日が経つにつれ、自分が何をしたいのか考える姿が見られるようになった。
- ・自信が持てるようになり、ものごとを大きく捉えられるようになった。
- ・あいさつや、感謝の気持ちを言えるようになった。
- ・「現地の方の話を聞いて『何事も経験』と言っていたことが本当によくわかった。何でもチャレンジせんといかん」と言っていた。臆病で保守的な性格の娘だが、少しずつ成長しているなど嬉しく思う。
- ・英検にチャレンジするなど、英語に対して意欲的。
- ・今はまだよくわからない。これから徐々に所々で変化や効果を感じるのではないか。

3. 自己負担の費用は適当でしたか。



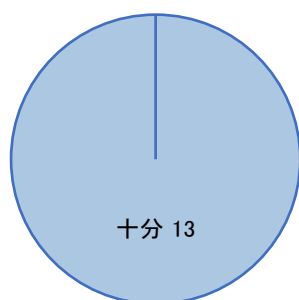
- ・とてもありがたい金額だった。
- ・個人では絶対に行けない費用で行くことができた。
- ・保護者としては嬉しいが、もう少し個人が負担してもいいと思える内容でした。だからこ子どもにも、今回の費用は町がほとんど負担してくれていることを伝え、目的意識を持って取り組むよう伝えた。
- ・後から1人あたり60万と聞き、本当に驚いた。1割負担でこのような体験ができて本当にありがたい。応募しやすい金額だった。
- ・この内容で7万円という金額ではとても安いと思う。しかし、家庭にはとてもありがたい金額だった。
- ・準備やお小遣いなどにもお金がかかるため、それなりの出費はあったが、研修の日数や、プログラムの内容を考えると、この負担は安いと思う。

4. 研修期間（2週間）は適当でしたか。



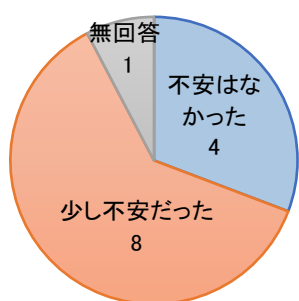
- ・ちょうどよいと感じたが、帰ってきたときは「早い！」と感じた。
- ・行った本人たちがどう思うかだが、1カ月くらいでもいいのでは。
- ・もっと長くても良いと思うが、2週間でも大変満足している。
- ・子離れするには調度良かったと思う。

5. 事前の渡航手続きの説明、サポートは十分でしたか。



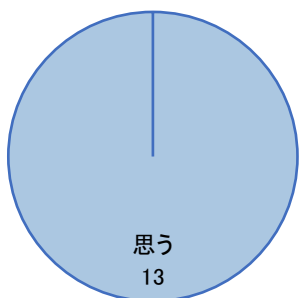
- ・細かな点まで説明してもらった。
- ・事前研修が思ったより多く、遠くから参加した子は大変だったのでは。
- ・十分わかった。わかりやすい説明で、何から何まで万全に準備してもらい安心できた。

6. お子様が研修参加中の不安はありましたか。



- ・言葉やコミュニケーション
- ・体調面
- ・食事面
- ・長時間の飛行機、時差による体調
- ・初日は不安を感じたが、フェイスブックでの情報配信があったので安心した。
- ・娘が研修期間にご迷惑をかけないか少し不安に思っていた。しかし研修中の報告や本人からの連絡でその不安も次第になくなった。
- ・体調面や言語など一通り心配したが、フェイスブックの配信で安心した。配信を見ることが毎日の楽しみとなった。

7. 今後もこのプログラムを四万十町で継続した方が良いと思いますか。



- ・海外に行って自分の目で見て体験するということは、人生にとって貴重な体験だと思う。
- ・個人ではなかなか経験させてあげられないため。
- ・高校生で海外に行けるということは貴重な体験。一生の宝物。
- ・今まで見たことのない世界に行き、色々な考え方ができるようになると思う。
- ・確実に成長できる。次男も地元の学校（四万十）を希望しているので、3年後もあればぜひ参加させてもらいたい。
- ・町のバックアップがあり、同じ町内の仲間と一緒にチャレンジできることはすごくいいと思う。
- ・本当に貴重な経験をさせていただいた。これからも是非継続してほしい。

8. その他、海外研修に関して感じたこと、ご意見ご要望等ありましたらお願いします。

- ・このような研修に参加できたことは、本人の今後の進路に良い影響を与えてくれたと思います。自己負担の費用もとても安く、親としては大変ありがたかったです。スタッフの引率もあり、安心して送り出せたことは、初めての海外への不安をなくしてくれました。夏休み中の参加だったため、毎年参加していたよさこい「四万夢多」に参加出来なかったのが残念でしたが、向こうでよさこい文化も紹介できたようなので、全体としてとても良い経験ができたと思います。ありがとうございました。
- ・環境、生活の仕方、表現の仕方。普段自分の住んでいる場所を出ないとわからないことがたくさんあります。何かあったときにどう自分が動かないといけないか、その経験がある人ない人で、これから人生が変わると思います。すごくいい経験だったと思います。1つ1つが自信につながっていると思います。
- ・現地研修のみではなく、事前の英語力・コミュニケーション力を身につける学習などを丁寧にしていただいて良かったと思います。引っ込み思案で事無く終わりたいすみっこ暮らしの性格(娘)が、自分で考え動いていこうという思考に変わってきています。
- ・ただただ感謝の一言です。高校1年のタイミングで参加できたことで今後の学校生活、人生を選択していく上でとてもよい成功体験になったと思います。親も子も視野が広がりました。
- ・それまでの準備、研修中、その後の報告会に向けての準備等、本当に様々な人にご協力いただきました。仲間と協力し合いやりとげる1つ1つのことが宝物になったと思います。これからの「自分」に向き合う良い機会になったと思います。本当にありがとうございました。
- ・本当に良い経験をさせていただきました！ありがとうございます！海外でのホームステイ、材料をそろえてピザ作り、目的地まで交通機関を乗り継いで行くetc. これから先、どんなチャレンジでも実現できる基礎を身につけることができたのではないかと感じています。この力を活かすのは、これからの息子次第。この研修がこの先の人生でたくさんの力になることを期待します。引率ありがとうございました。感謝しかないです！書ききれません。
- ・事前準備の研修等、本当に細部にわたり、子どもたちをサポートしていただきました。本人も一人でのホームステイに勇気を出して手を挙げましたが、不安で仕方なかったはずですが、しかし、泣き言を家では言わず出発いたしました。カナダでは、ホームステイ先のファミリーの皆様にとっても可愛がっていただき、異文化にも触れ、考え方や物の見方の違いに感動したようです。帰国後は海外研修での経験を、自分のスキルアップに繋げようとする姿がよく見られます。この2か月の娘の成長を嬉しく思います。ありがとうございました。
- ・カナダでの経験は子どもにとって宝物です。研修までの学習、研修後の学習もすべて子どもの力になっていると思います。「じゆうく。」の先生にも日頃からお世話になり、本当に感謝しています。ありがとうございます。報告会を楽しみにしています。
- ・子どもの「行きたい」という強い意志を感じたので、参加させました。事前・事後研修もあり、親にとっても負担はありましたが、子どものために頑張りました。我が家は窪川まで片道1時間かかるので、研修場所を大正にも設けていただいて本当に助かりました。この海外研修で「何かを得てくる」と出発しましたが、帰国した息子を見ると、無駄ではなかった研修だったと感じました。このような機会を与えてくださりありがとうございました。
- ・自分が学生の頃には出来なかった素晴らしい経験をしている子どもを見て、羨ましく思いました。フェイスブックは毎日楽しみにチェックし、家では見ない心からの笑顔が見られ、行かせて良かったと思いました。研修期間中、本人とは全く連絡は取りませんでしたが、フェイスブックで様子が知れたので心配もありませんでした。ありがとうございました。
- ・こういう機会を作っていただきありがとうございました。まだ帰国1か月ということで大きな変化は見られませんが、事前研修・事後研修も含め、長い時間を一緒に過ごした仲間とい関係ができています。

現地・引率スタッフより



This past summer I had a fabulous time working with thirteen students and two teachers from Shimanto Japan. I was extremely impressed with everyone's desire to try their best, and use their English skills to fully participate in all the activities. Our teaching team consisted of: three amazing English buddies, Kianna, Zach and Lily, the teacher Erin Luong and our outstanding coordinator Miyuki Hirano. Together we helped our guests enjoy a variety of Canadian excursions.

今年の夏は、日本の四万十町から来た13人の生徒と2名の先生と、素晴らしい時間を過ごしました。率先して英語を使い、アクティビティに一生懸命参加している皆の様子に、感銘を受けました。私達のティーチングチームは、私に加え、3名のすばらしいバディ（キアナ、ザック、リリー）とコーディネーターの、ミユキヒラノです。私達は、カナダでの様々なアクティビティを楽しんでもらうために、お互いに助け合いました。

We offered a variety of opportunities for our students to practice their English throughout their visit including: a trip to the grocery store for Top Chef Canada, bowling

なるべくたくさん英語を使う機会があるように、下記のような様々なアクティビティをしました。「トップシェフカナダ」（TV番組）と題して、近くのスーパーへの食料の買い出し、ボーリング、

and customizing their orders at Starbucks, interviewing a variety of strangers during the Amazing Race Calgary, touring the University of Calgary Campus and exploring Banff National Park. One lesson which both teachers and students appeared to thoroughly enjoy was the interview with the founder of Grow Calgary.

スターバックスでのカスタマイズ注文、アメージングレースの一環で、街の人への突撃インタビュー、カルガリー大学でのキャンパスツアー、バンフナショナルパークへの観光などなど。中でも「Grow Calgary」の主催者へのインタビューが先生にとっても、生徒にとっても思い出に残っています。

I was impressed to see the connections and friends formed between the Japanese and Canadian members of our group. These connections and memories will last a lifetime. Thank you so much for allowing me to be your teacher. You have taught me so much.

私達のグループ内で育まれた日本とカナダの子供達の友情に感動しました。この繋がりと思いは、一生続くことでしょう。あなた達の先生をすることができたことに、とても感謝しています。あなた達から、沢山のことを学びました。

Sincerely

敬意を込めて。

ESL教師

Erin Luang

エリン・ルオング



今年の夏も、期待と不安を胸に、13名の生徒がカルガリーにやって来ました！毎年、出迎えに行く度に、自分が留学先の空港に降り立った時のことを思い出します。ワクワクドキドキ、これからどんな事が待ち受けているんだろう！という期待と共に、自分の英語力で、ホストファミリーや周りの人たちと本当にコミュニケーションが取れるのだろうか？という不安。みんなもそんな気持ちで来たことと思います。

初日、照れながらもホストファミリーと挨拶。これから、2週間お世話になるカナディアンファミリーです。私はいつも、短期間でも本当に家族の一員として接してくれるファミリーにホストをお願いしていますが、今回も素晴らしい7家族が参加してくださいました。みんな、色々なところに連れて行ってもらったり、家族のイベントに参加させてもらったりと、それぞれ思い出深い、良い経験が出来たことと思います。

ESLのエリン先生も、過去に日本でのALTの経験のあるベテラン先生。彼女の明るさと笑顔で、緊張もすぐに溶け、和やかな雰囲気の中、授業を進めることができました。そして、何と言っても同年代のバディ達。キアナ、ザック、リリーの3人が、スモールグループのリーダーとして、プログラム中、生徒達の手助けを本当に熱心してくれました。

今回のテーマは、日本で学んできたSDGs (Sustainable Development Goals) を踏まえて、カナダでは、どんな人が、どんな活動を行なっているのか？そして、自分たちには何ができるか、再検討するということでした。私自身も、訪問やインタビューのお願いをする中で、色々な人が、自分の利益のためではなく、困っている人達や、動物達のために、自分が出来ることを行動に移して、そして周りの有志と共に、活動を行なっていることを知りました。中でも、アニマルシェルターへの訪問で、ボランティアの方から、話を聞いたり、Grow Calgary (オーガニックファームで取れた野菜をホームレスやシェルターに寄付している団体) の主催者に、一人一人質問を用意してインタビューした事は、今までにない画期的且つ、有意義なアクティビティとなりました。

そして、ヘスース牧師からのお話。一人一人がユニーク (特別) で、あなたにしかできないことが必ずあるから、人と自分を比べないこと。あまり気の合わない人に出会ったときも、「この人の特別はなんだろう？」と関心を持つこと。世界のどこを探しても、あなたと全く同じ人はいない。「あなたは、あなただから素晴らしいんだ！」というメッセージを聞いて、感動のあまり涙ぐむ生徒もいました。(通訳していた私は、号泣でした！！)

普段の生活ではなかなか考えないことをたくさん考え、経験できないことをたくさん経験して、たった2週間という短い期間でしたが、皆、ひと回りもふた回りも大きく成長して、カルガリーを後にしました。

今回も、引率の前田先生、早川先生、そしてツアーガイドの藤原さんには、大変お世話になりました。この場をお借りして、お礼申し上げます。また次回、四万十町からカルガリーに来る生徒達を心からお待ちしています。ありがとうございました。

カルガリー現地コーディネーター

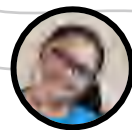
平野三友紀



This summer was my first time as a conversation buddy. This experience was so much fun and was such a great learning experience for not only the students, but for myself as well. I was able to learn how to communicate with people who didn't speak the same language as me and was also able to learn a little bit about Japan's culture. I had so much fun teaching the exchange students more about Canada's culture and seeing different reactions to different situations. This whole experience was a special one of a kind experience that let me meet people who I wouldn't have otherwise. I am so glad to have been able to be a part of these students memorable experience.

During the summer, I was given the opportunity to become a conversation buddy for the Japanese students. It was a very fun experience for me, I thought that it did not even feel like work at all. Everyone was very welcoming and kind and I would look forward to seeing the students and the teachers for those nine days.

この夏、初めてカンパセーションバディをしました。この経験はとても楽しく、日本の生徒だけではなく、私自身にとっても良い学びの場となりました。自分と同じ言語を話さない人と、どうやってコミュニケーションを取ったらいいのかを学んだり、少しだけですが、日本の文化も学んだりすることができました。逆に、カナダの文化を伝えることや、あらゆる場面で違ったリアクションを見ることができたことは、とても面白かったです。全てが特別で、この機会が無ければ出会わなかった人たちに出会えたことは一生に一度の経験でした。皆の思い出深い経験に関われたことをとても嬉しく思います。



Lily Smith
リリー・スミス

この夏は、日本からの学生のためのカンパセーションバディになる機会がありました。とても楽しくて、全然仕事という感じがしませんでした。皆、とても親切で、暖かく迎え入れてくれて、9日間、学生や先生達に会うのが楽しみでした。

I made many friends in my short time with the group and I hope that more will come and experience the Canadian culture. I already miss everyone. I saw lots of improvement to the students' English, and how they adapted to the colder environment around them by bringing layers of clothing. I was proud and also impressed. They seemed to enjoy their first time in Canada, it brought me joy. I want to visit Japan someday as it looks very beautiful and the people there seem very nice, and I want to see my new friends again. Overall, I am very grateful to be a part of this program as a conversation buddy and I hope I can become a buddy once again as soon as possible.

短期間でしたが多くの友達ができたことで、これからもカナダの文化を学びにたくさんの方々に来てもらいたいと思いました。皆のことが、すでに恋しいです。英語力が向上したり、寒さに対応するために重ね着するようになったりという皆の様子をたくさん目撃しました。とても誇らしく思ったし、感動しました。皆、初めてのカナダを楽しんだようで、僕は嬉しかったです。日本はすごく綺麗そうだし、人も良さそうだから、いつか日本に行ってみたいです。そして、今回新しく出来た僕の友達にも会いたいです。このプログラムにカンバセーションバディとして参加することができて、とても光栄に思います。またすぐにでも、やってみたいです。

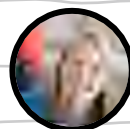


Zachary Torralba

ザック・トラルバ

Hello there! I am Kianna and have been a conversation buddy for the past two years. This experience has completely changed my life. I have been so greatly influenced by so many great students my age who have inspired me to strive to be the best I can. The connections made with the students are life long. This experience has influenced me more than ever to come to Japan in order to learn more about the Japanese culture and see my friends again. It was such a great experience, and I will forever hold onto the memories I've made.

こんにちは！私は、キアナです。昨年度に引き続き、今年度もカンバセーションバディをしました。この経験は、私の人生を大きく変えました。私と同じ歳の、たくさんの素晴らしい生徒に影響されて、自分もベストを尽くすことに励もうと思うようになりました。ここで生まれた絆は、一生涯続くものです。日本に行って、もっと日本の文化を知りたいと思うきっかけになったし、私の友達にも会いに行きたいです。これからもずっと、この素晴らしい経験を忘れません。



Kianna Stewart

キアナ・スチュアート



「まず、みんなが今良かったっていう思いを持っていて本当に良かったと思う」カルガリー空港で生徒13名の2週間の振り返りを聞いた後に、僕が伝えた言葉です。生徒の芯のある思いの共有に熱くなり、この言葉が出ました。自分の言葉をゆっくり丁寧に紡ぐ姿、他の生徒の思いを真剣に聞いてそれをじっくりと自分の中に落とし込む姿、本当に良い空間でした。ただ、今振り返ると、この言葉は半分正解で半分間違っていたように思います。

ですので、この場を借りて訂正します。僕が「ああ良かったな」と感じたのは、生徒が「良かった」と口にしたからではない。生徒がこの2週間でたくさん揺さぶられ、たくさん考えたという事実を、振り返りの言葉から感じられたからです。

8月15日（木）、牧師さんからお話をいただいた時のこと。この日は予定変更があってバタバタし、牧師さんの話も当初の時間ではなく、何の下準備もしないまま話を聞く流れに。加えて、Omatsuri、ダウンタウン散策、カルガリー大学訪問、バンフ観光と派手なプログラムが続いた後の、「静」の時間。「特に準備もせずに、ただ話を聞くこの時間、大丈夫かな」一抹の不安が僕の頭をよぎりました。しかし、それは杞憂。深い含蓄のある彼の話を聞いていた生徒たちは徐にノートを取り、この時間を忘れまいと必死にメモを取り始めました。誰にも何も言われずとも、体験自体が派手でなくても、自分にとって必要だと思うから筆を走らせる。まさに、生徒が揺さぶられたのが見えた尊い瞬間でした。

今回の研修、僕は写真で瞬間を残すことを心がけていました。毎晩その日の写真を精査し、共有フォルダに入れるのが日課。この作業は幸せ以外の何物でもありませんでした。なぜなら、生徒が揺さぶられた瞬間を改めてたくさん見ることができたからです。だからこそ、自信を持って言えます。プログラム作りに尽力してくださった皆様のおかげで、同様の瞬間がたくさん生まれたのが今回の研修であったと。

グローバル化が加速し、ボーダーがなくなっていく今の時代。世界に遅れを取らないように、日本は国をあげて、英語を学ぶこと、海外に出ることを推奨しています。そしてそれは売りになる。そのため、英語を実戦形式で学ぶことも、海外研修も、もはや珍しくありません。そんなプログラムは日本中に数多く存在します。その中で、四万十町のプログラムの特徴は何か？それは、ただひたすらに、感情や考えを揺さぶることにあると思います。それが高校生という多感な時期に、わざわざお金と時間をかけて知らない環境に身を置く意味だと思います。

今回の僕自身のチャレンジは「生徒それぞれのすごいところを50個見つける」でした。一番大きかったのは、この目標があったことによって、いつもより注意深く生徒を見るようになったこと。そしてたくさん発見があったこと。自分にはない特徴を活かして様々な場面で活躍していた13名の姿に、心を揺さぶられ、「じゆうく。」の生徒という一義的な側面でのみ彼らを見ていた自分が恥ずかしくなりました。以下に記すペンネームのようなものは、50個のすごいところを俯瞰した上で、独断と偏見でつけてみた13名のあだ名です。もちろん「あなたはこうである」と決めつけるものではありませんが、自分にはこんな良い特徴があるんだ、と自信を持つ一助になってほしいなと願っています。皆、本当にすごい。

男気姐さん、じっくりコトコトさん、ロールザクロさん、底抜けポジティブさん、森さん、水きり知性さん、クリエイティブチョッパーさん、納得へのこだわりさん、情熱登山家さん、愛され気配リーダーさん、結果こだわりジェントルマンさん、職人技さん、上昇志向の天然リーダーさん、改めてお疲れさまでした。皆と一緒にカルガリーに行けたことで僕もたくさんの気づきを得ることができました。皆の本気に感謝します。

今年度も引率として本研修に参加させてくださった四万十町の皆様、企画づくりに携わってくださった全ての皆様、普段から絶えず応援してくれた「じゆうく。」スタッフの皆に感謝の意を表して結びとしたいと思います。ありがとうございました。

昨年に引き続き、四万十町高校生海外研修事業を担当させていただき、今年もたくさんの素晴らしい生徒の変化に立ち会うことができました。カナダ滞在中は全てが挑戦。怖い、出来ない、無理……そんなネガティブな感情と向き合って、えいっと一歩踏み出してみる。そうすると、「あれ、意外とできるな」を感じる。できないできないって思っていることは、やってみたら意外とできる。実はやってこなかっただけ。じゃあ、自分にはもっと高いハードルをこえる力があるのかも？そんなことを感じ始めた子たちは、「実は私、こんなことをやってみたかったんだよね」を口にします。この瞬間が本当に嬉しい。教育に携わる人間として、これ以上に幸せな瞬間はないのではないかと思います。

次の海外研修はどうしようかと、昨年度の報告会が終わった数カ月後から考え始めました。1年目は大成功と言える研修になったと思いますが、「昨年と同じ」ということを基本的に私は選択しません。年々、歳を重ねていく私が、常に伸びゆく若い生徒たちと共に過ごすためには、いつも学ぶことを忘れず自分自身をアップデートしていくことが必須。それが教育者の端くれとしての私の信念です。そんなわけで2年目はどんなステップアップを図ろうかと頭を悩ませました。

内閣府の『子ども・若者白書』（令和元年度）では、「私の参加により、変えてほしい社会現象が少し変えられるかもしれない」「そう思う」と答えた若者がわずかに8.5%しかいませんでした。これからの社会を形成する若者が「自分に社会を変える力なんてない」と思っているとしたら、それは大きな社会的損失ではないでしょうか。

公教育の使命は、社会の中で生きる人間を育てることだと思っています。社会は人によって形成されるもの。全員が社会の構成員であり、作り手である。そして、人間の生きる意味は、人の輪の中でしか形成されない。人は一人では生きていけない。社会の中で、人を愛し、人に愛され、有用感を感じながら生きていくこと。その土壌を育むことが、学校教育の役割であり、学校は「自分の存在」と「社会」を接続させる場でなければなりません。しかし、ここが現代日本の公教育が抱えている課題の1つなのではないかと感じています。

このような課題意識から、今年は「Be a change maker」というコンセプトを掲げました。挑戦を通じて、自分を変化させる。そして、自分の力で、他の人や社会に変化を作り出す存在になる。そのため、今年度は新しい取り組みとして（株）教育と探求社のSocial Changeプログ



ラムを行ったり、カナダ滞在中に社会起業家や牧師さん、ボランティアに従事している方々に話を聞いたりする時間を設けました。まだ「変化を作り出す」段階まで持つことはできませんでしたが、「あなたも変化の作り手になれる」というメッセージは伝わったのではないかと考えています。

「あなたには可能性がある。」これは、普段から大人は子どもたちに伝えているメッセージだと思います。しかし、このメッセージを届けるだけでは、心に響かない場合もある。そのくらい子どもたちに「失敗への恐怖」や「自信のなさ」が染み付いているように感じます。それは、四万十町の子どもたちに限らず、日本全体の問題ではないでしょうか。自分に自信を持っていない子どもたちに必要なのは、失敗が許容され存在を認めてもらえる「承認の場」と、やってみたい、できる気がすると思える適切な「挑戦の場」だと思っています。

町営塾「じゆうく。」はまさにこの承認と挑戦の場です。学習への苦手意識を積み重ねて、自信を失っている子どもたちに、「あなたもできる」を言い続け、一緒に伴走する。そして、「自分も出来るかもしれない」を感じ始めた子に、挑戦となるような次のステップを提示してあげる。その小さな挑戦を積み重ね、自分に自信をつければ、自立的に学習する力が身に付き、最終的に自分の未来を切り開ける生徒になっていくと信じています。

この海外研修報告書に書かれている13名の生徒たちの挑戦と変化にどれほどの価値があるのか、どれだけ投資する意味があるのか、正直私には計ることができません。その事業評価は、町民の皆様方に委ねたいと思います。ただ、ここで述べたようにこの海外研修は「英語の成績を上げる」ために実施をしたのではないということをご理解ください。

子どもたちに「承認と挑戦の場」を与えていく。そんな場所が、この四万十町にたくさん増えていくこと、そしてこれからの社会を形成する若者たちを宝として地域全体で育てていくこと。この研修や町営塾「じゆうく。」が、そのような町づくりの一助になっていくことを願っています。

町営塾「じゆうく。」
株式会社 FoundingBase
塾長

前田喜久子より

令和元年10月

四万十町人材育成推進センター

町営塾  じゅうく。

〒786-0008

高知県高岡郡四万十町榊山町3-7

☎ 0880-22-3163

103060@town.shimanto.lg.jp

